

ヒヤリ・ハット調査
「降雨時の身の回りの危険」

平成25年6月

東京都生活文化局消費生活部

目 次

1. 調査目的.....	1
2. 調査概要.....	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査内容	1
(5) 回答者の属性	1
3. 調査結果（ヒヤリ・ハットや危害経験）	2
(1) 全体的な傾向	2
(2) 降雨時における「傘」	5
(3) 降雨時以外（たたんだ状態）の「傘」	8
(4) 降雨時における「履物（足元）」＜男性の場合＞	10
(5) 降雨時における「履物（足元）」＜女性の場合＞	13
(6) レインコート・ポンチョ・帽子	17
(7) 自転車、電動アシスト自転車、原動機付き自転車、 ベビーカー、車椅子、杖の使用経験	20
(8) 自転車（電動アシスト自転車を除く）	21
(9) 電動アシスト自転車	25
(10) 原動機付自転車（50cc 以下バイク）	27
(11) ベビーカー	29
(12) 車椅子	32
(13) 杖	34
(14) その他	37
(15) 降雨時における「15歳未満の子供」のヒヤリ・ハット経験	38
(16) 降雨時に怖い、又は身の危険を感じる製品や場所	39
4. 調査結果（意識・要望）	40
(1) 傘をさしながらの自転車運転禁止について	40
(2) 降雨時の安全について国や自治体、企業等に望むこと	40
5. まとめ	43
6. 結果の活用	43

1. 調査目的

日常生活における「ヒヤリ・ハット」の経験は、どこへも情報提供されることなく多数埋もれていることから、東京都では危害危険情報を積極的に掘り起こすため、ヒヤリ・ハット調査を実施している。

「梅雨」「秋の長雨」「春雨」という言葉が日常的に使われるとおり、地域差はあっても雨の日は「特別な日」ではない。東京では一年のうち約 100 日は 1mm 以上の雨が降っている。

一方、「雨の日は危険が潜んでいる」とおぼろげながらわかっているにもかかわらず、その危険については大きな事故が起こらない限り顕在化することはない。

今回は、そのような降雨時のヒヤリ・ハットや危害経験について、15 歳以上の都民対象にインターネットアンケート調査を行い、雨の日にの身の回りで起こった経験や安全に対する意識・要望を掘り起こしてまとめた。

2. 調査概要

(1) 調査対象

東京都に居住する 15 歳以上の男女 3,000 人（インターネットアンケート登録モニター）

(2) 調査期間

平成 25 年 1 月 29 日～1 月 31 日

(3) 調査方法

インターネットによるアンケート形式で実施

(4) 調査内容

本調査では、日常生活における降雨時に使用する製品で、消費生活相談や事故情報のキーワードに見られた製品、また子供や高齢者に深く関わる製品から、傘、履物、レインコート・ポンチョ類、自転車（電動アシストなし、あり）、原動機付自転車、ベビーカー、車椅子、杖等の製品を中心に過去 5 年以内における降雨時のヒヤリ・ハットや危害経験の有無を聞いた。次に、ヒヤリ・ハットや危害の経験が「ある」と回答したものについて、その程度と状況について選択式及び記述式の設問で詳しく聞いた。

(5) 回答者の属性

回答者は、10 歳代、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代以上の回答者をそれぞれ 500 人とした。

表 2-1 調査対象の分布

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	男女別計	合計
男性	250	250	250	250	250	250	1,500	3,000
女性	250	250	250	250	250	250	1,500	

**ヒヤリ・ハット
危害** ケガはしなかったが、ヒヤリとしたりハットとした事例
ケガをした事例や発火・発煙・引火等重大な事故につながるおそれのある事例
「ケガ」には、やけどやかかぶれ、呼吸困難、具合が悪くなった等も含まれる。

3. 調査結果（ヒヤリ・ハットや危害経験）

(1) 全体的な傾向

ア 降雨時のヒヤリ・ハットや危害経験者

アンケートの回答者 3,000 人のうち、降雨時におけるヒヤリ・ハットや危害の経験者が 2,370 人(79.0%)いた。

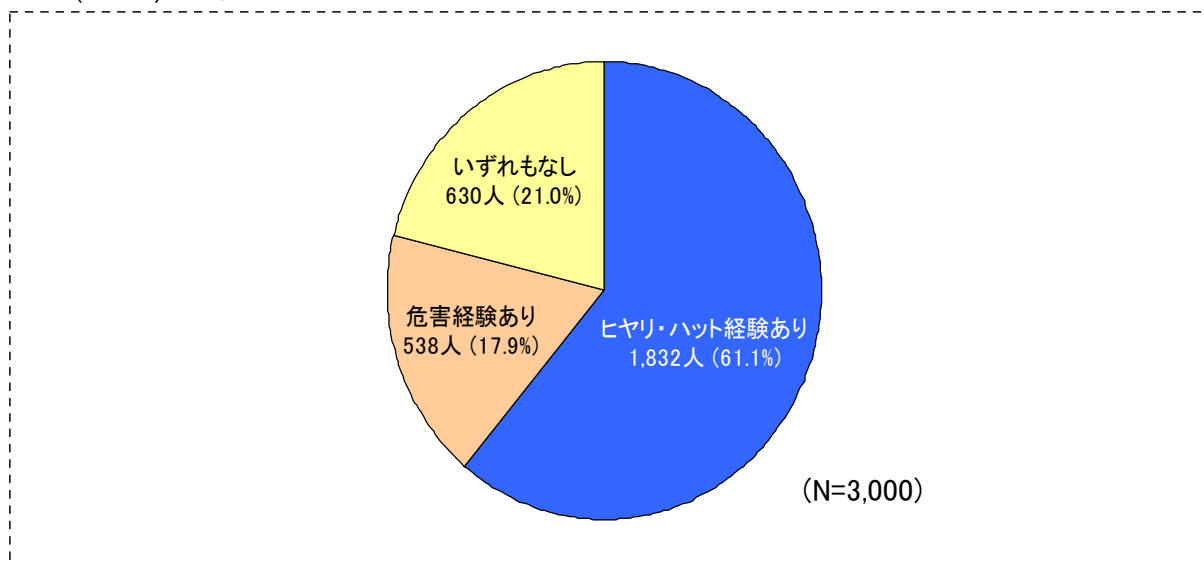


図 3-1-1 降雨時におけるヒヤリ・ハットや危害経験の有無

ヒヤリ・ハットや危害経験者 2,370 人を年代別の割合を見ると、最も多いのが 30 代、40 代の 425 人 (17.9%) だが、最も少ないのが 20 代の 344 人(14.5%)であることから、ヒヤリ・ハットや危害経験の年代による大きな特徴は見られない。その中でも 30 代、40 代が多いのは、天候に関わらず通勤等で毎日外出しなければならない条件下にある回答者が多いことによるものと思われる。

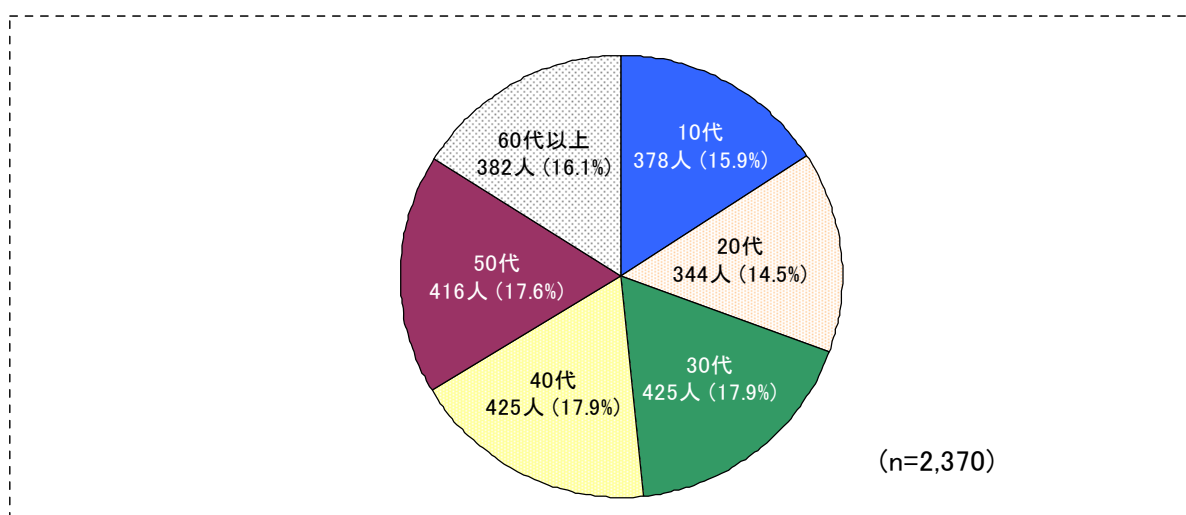


図 3-1-2 降雨時におけるヒヤリ・ハットや危害経験者の年代別内訳

※本報告書における注意事項

- ・グラフ上の「N=〇」(〇は数字)は、アンケート対象者の数を示す。
- ・グラフ上の「n=〇」(〇は数字)は、設問に対する有効回答件数を示す。
- ・比率(%)は、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。したがって、率の合計値が 100%にならない場合もある。

今回のアンケート調査で例示した製品別のヒヤリ・ハットや危害経験者を図 3-1-3 に示す。

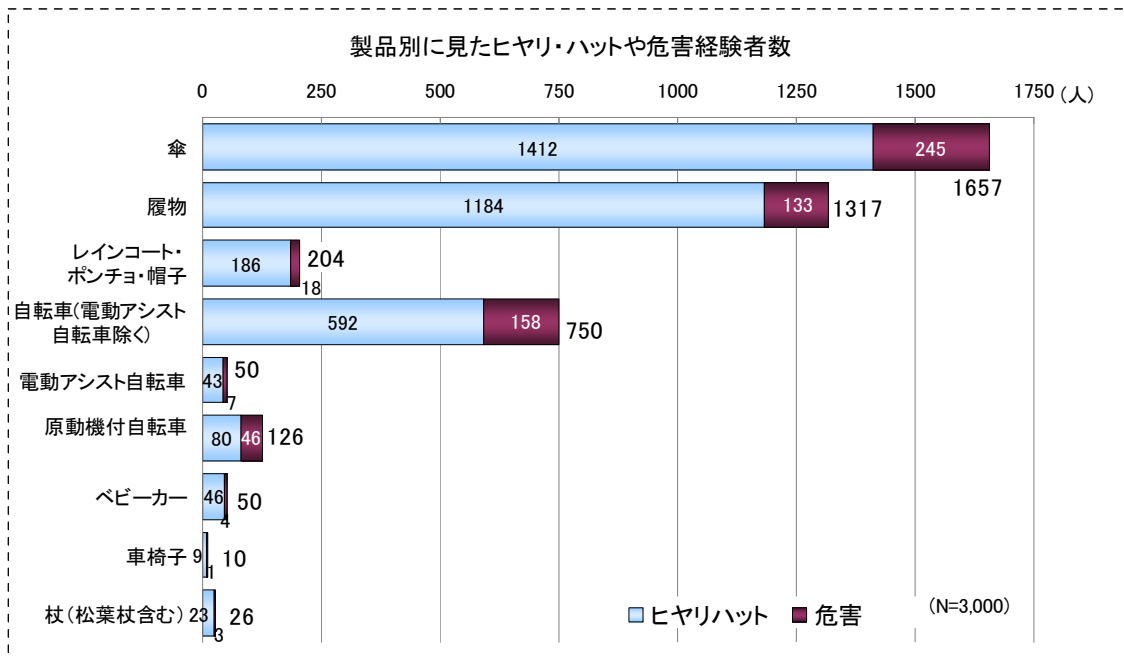


図 3-1-3 製品別に見たヒヤリ・ハットや危害経験

イ 降雨時における危害経験者の医療機関への受診・入院

製品別危害経験者の医療機関への受診・入院の有無について見ると、履物（足元）での経験者が最も多い。

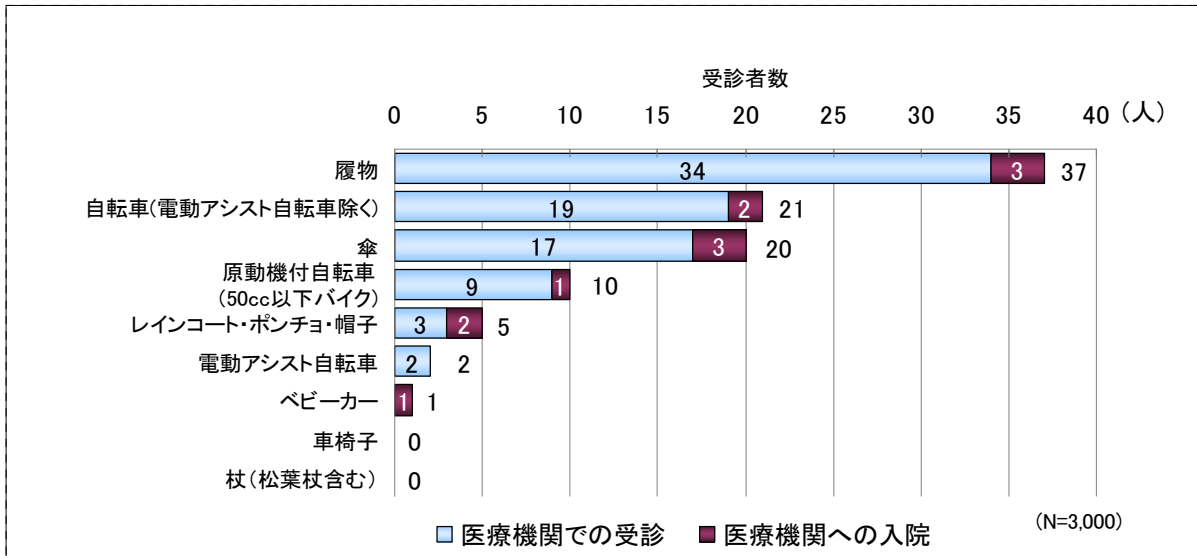


図 3-1-4 降雨時における危害経験者の医療機関への受診・入院者

ウ 降雨時のヒヤリ・ハットや危害経験の時間帯

各製品のヒヤリ・ハットや危害を経験した時間帯については、午前中、夕方の経験者が多かった。通勤通学等の人の往来の多い時間帯に発生するケースが多いことが見て取れる。特に午前中の場合、出勤や登校時を始め、それぞれの目的地に向かうという時間的に余裕のないときに多く経験しているものと思われる。

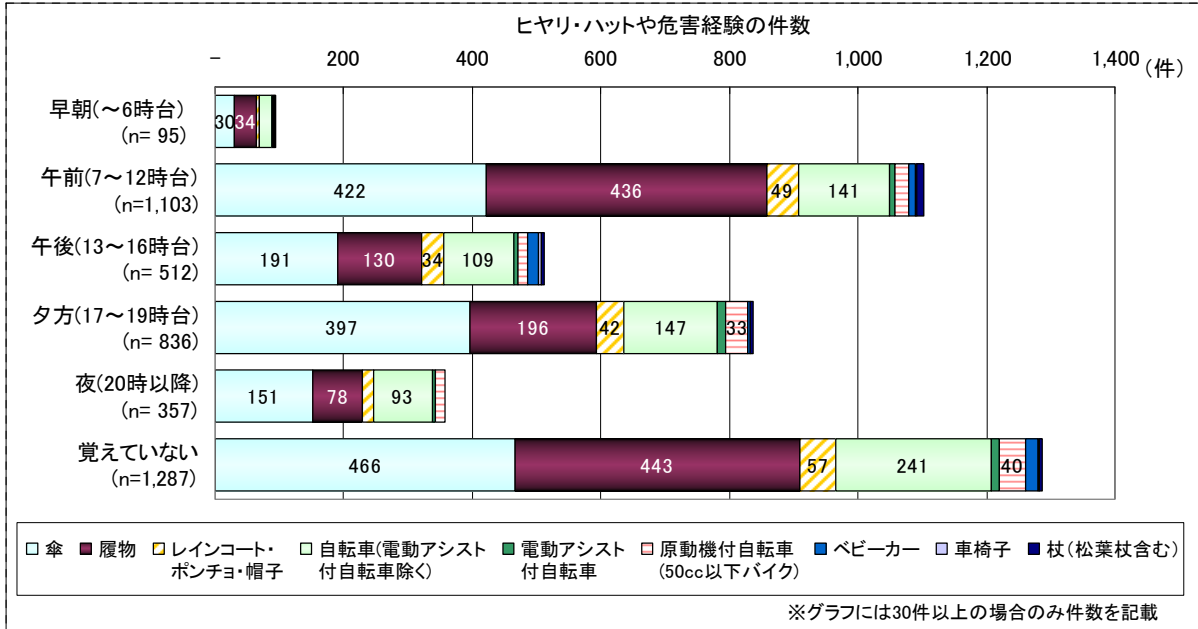


図 3-1-5 時間帯別にみたヒヤリ・ハットや危害の発生状況

(2) 降雨時における「傘」

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

降雨時における、「傘」について、3,000 人中 1,657 人にヒヤリ・ハットや危害経験があった。事例としては（複数ある場合は最も印象に残っているもの）「傘で視界が悪くなって、自転車、自動車等の車両にぶつかった、ぶつかりそうになった」が 440 人と最も多く、次いで「傘で視界が悪くなって人にぶつかった、ぶつかりそうになった」402 人、「傘が原因で他の人にケガをさせられた、させられそうになった」344 人、「傘が風であおられて、ケガをした、しそうになった」254 人と続く。

年代別では、30 代が 306 人と最も多く、50 代が 287 人と続くが、最も少ない 20 代でも 248 人いることから、年代的な大きな特徴は見られない。

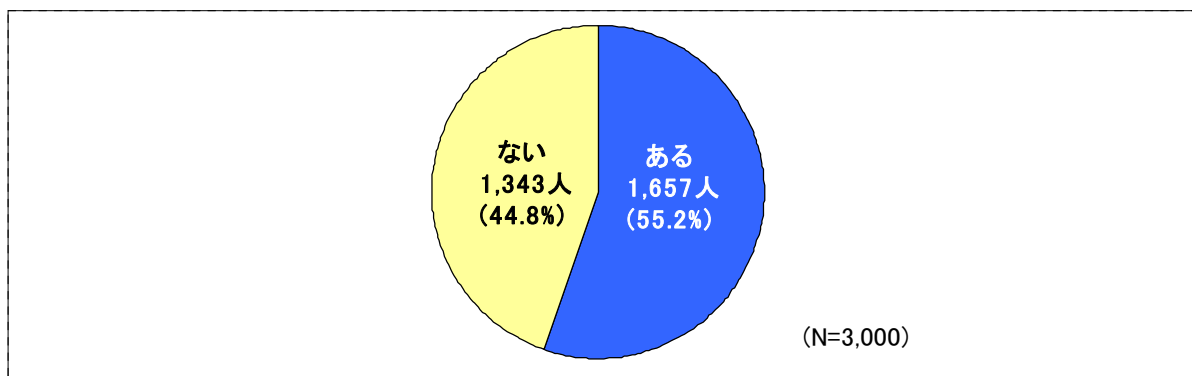


図 3-2-1 降雨時における「傘」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

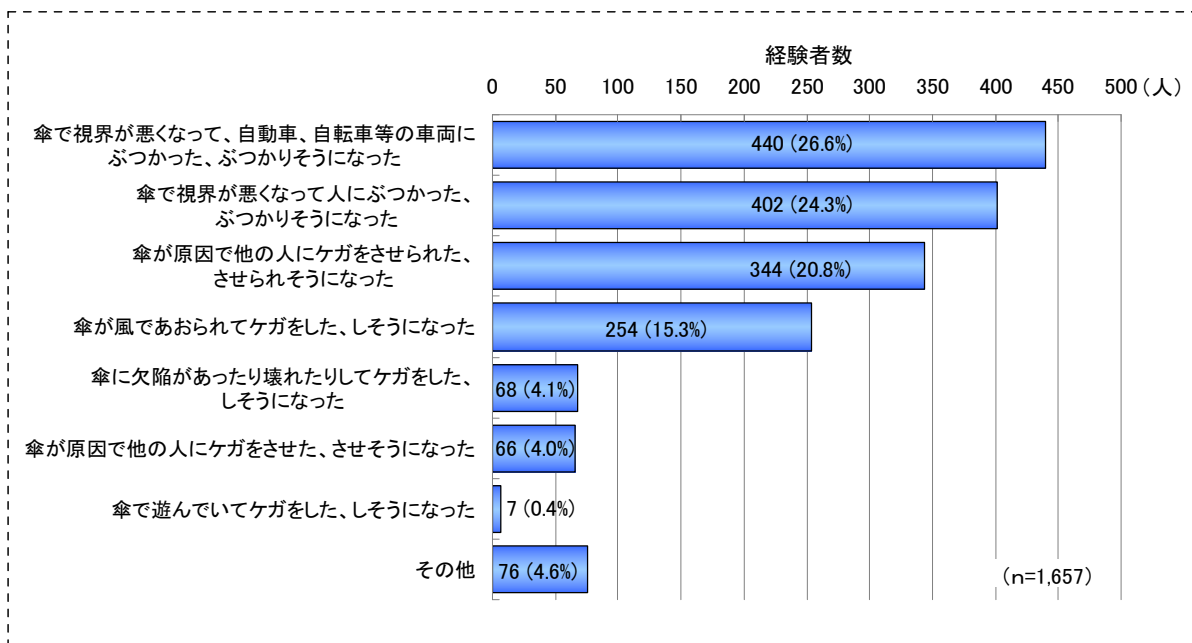


図 3-2-2 降雨時における「傘」でのヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害の程度

ヒヤリ・ハットや危害の程度について、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が1,657人中1,279人と最も多いが、ケガをした人も83人おり、そのうち20人が医療機関を受診している。

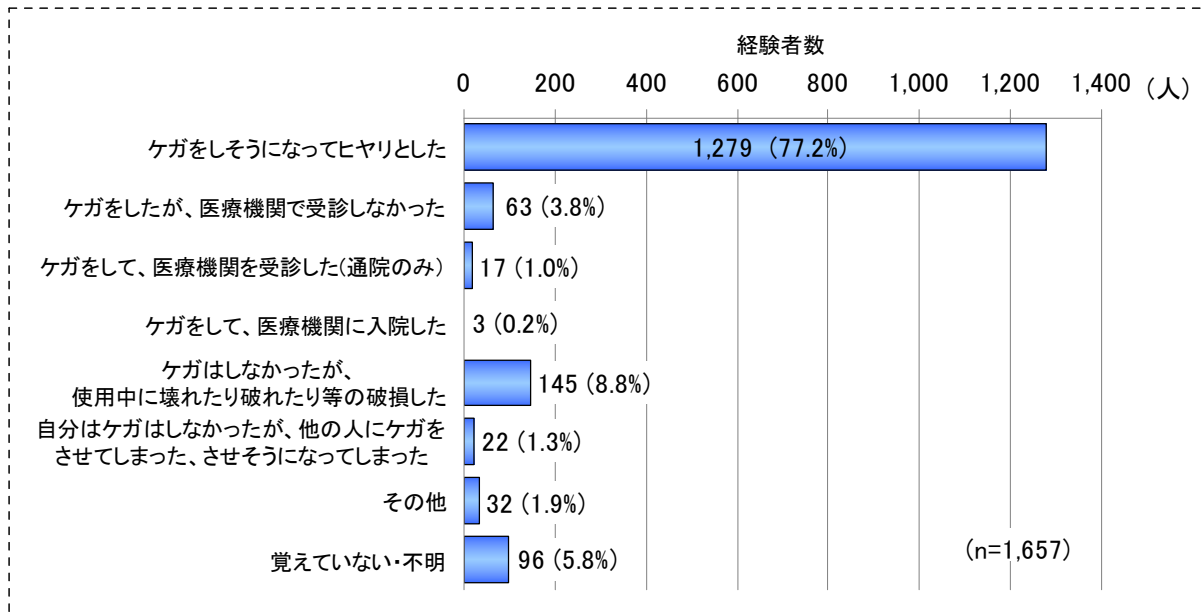


図 3-2-3 降雨時における「傘」でのヒヤリ・ハットや危害の程度

ウ ヒヤリ・ハットや危害を経験した場所

降雨時の傘でのヒヤリ・ハットや危害を経験した場所については、「歩道」が1,262人と最も多く、次いで、「歩道以外の道」227人、「階段」52人と続く。

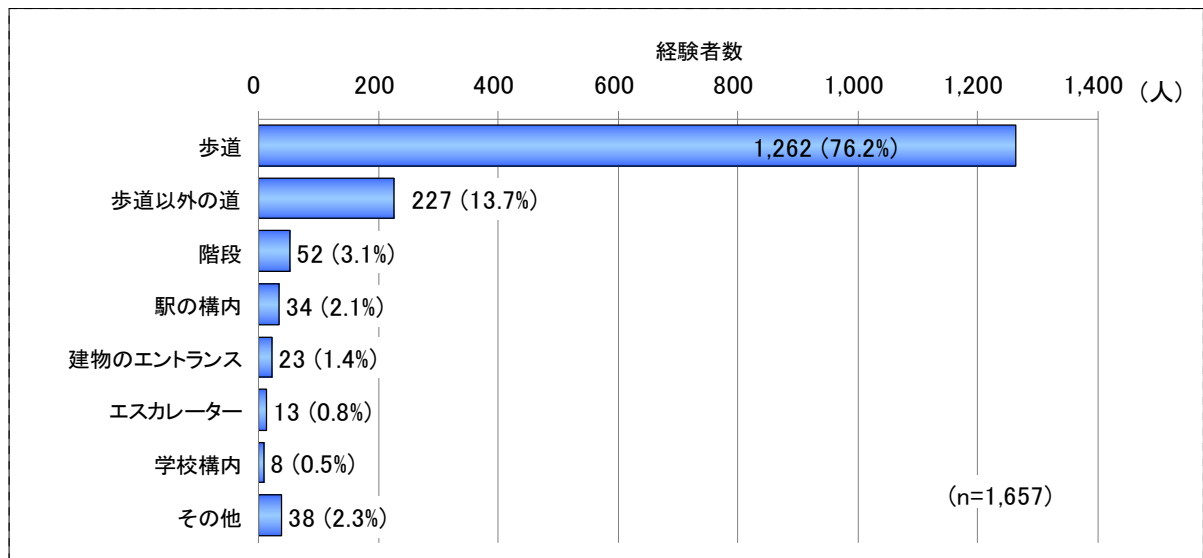


図 3-2-4 降雨時における「傘」でのヒヤリ・ハットや危害経験の場所

エ ヒヤリ・ハットや危害経験の具体的な内容

降雨時の傘におけるヒヤリ・ハット経験の具体的な内容では、自転車や人との接触・衝突、風にあおられる等の経験が多い。法令違反である傘を差して運転している自転車に関するヒヤリ・ハット（ぶつめた、ぶつけられた等）が経験者の約1割に見られた。

表 3-2 降雨時における傘によるヒヤリ・ハットの具体的な内容

項目	No.	具体的な事例	年齢	性別
接触・衝突	1	自転車を引き傘をさしていたので手元がぐらぐらし、人にぶつかりそうになった。	19歳	男性
	2	小雨時道を歩いていたら反対側から来た人がスマホを操作しながら道の真ん中を歩いてきて、傘の骨が見えていてそれによって頬が切れた。	19歳	女性
	3	雨が降っていたとき、カッパを着て自転車で走り回っていたら、向かい側から来た歩行者の傘に顔があたった。	19歳	女性
	4	雨が強く振っていて、黒の大きな傘で透過性が悪かったため、横道から来た車にぶつかりそうになった。	28歳	男性
	5	傘をさしていなければ見えるところで死角に入った自転車で気づかずぶつかりそうになった。	28歳	男性
	6	私が通勤時歩いているところは通学路となっているために、小学生の傘がぶつかることが頻繁にあるまた、歩道が狭いところがあるがそこでは対向者の傘や走ってきた車にぶつかることなどが多くある。	33歳	女性
	7	前方からの雨風が強く、視界を傘で覆っていたら、前から自転車で衝突しそうになった。	33歳	男性
	8	歩いている、自転車で乗った人の傘とぶつかった。傘さし運転って怖いと思いました。相手は乗り物に乗っている、スピードがでているのでぶつかった衝撃は結構ありました。	35歳	女性
	9	雨と、ビル風だと思いが突風が吹いて、傘が飛んでいきそうになったうえ、自分も持っていかれそうになって、傘はひっくり返った。	40歳	女性
	10	子どもの手を引いて歩道を歩いていたとき、子どもに気をとられてよそ見をしていたら前から自転車がきた。	42歳	女性
	11	ゲリラ豪雨で視界不良の時、前からきた車に気づかず傘がひっかかった。	47歳	男性
	12	大雨時、風が来る方に傘を傾けて歩道を歩いていたら、向かって来る人と正面衝突しそうになってヒヤリとした。	48歳	男性
	13	細い歩道ですれ違いざま相手が傾けた傘が眼鏡に当たりずれてしまった。眼鏡がなかったら目に当たったかもしれない。	48歳	男性
	14	繁華街で道が狭いところに、かさを広げたままで歩いている人。傘の先端が目の高さなのですごく怖かった。	50歳	女性
	15	家の前の歩道を歩いていたら、傘をさして片手運転をしている自転車が、前を確認せずにものすごい速度で私に向かって走ってきた。間一髪でよけたが、そのときに街路樹で傷を負った。自転車は、私のことを気にも留めずに走り去った。	52歳	女性
	16	自転車で傘さしてお年寄りつぶかって、ころばしてしまった。	53歳	男性
	17	本降りの雨の中、歩道を歩いていると前から傘をさしながら自転車で乗った若い男子学生が猛スピードでこちらに向かってきた。よける間もなくぶつかられた。	56歳	女性
	18	夕方雨で視界が悪く、音もなく近づいた車に気付かなかった。触れる一歩手前で止まった。	56歳	女性
	19	ものすごい雨で真正面から降ってきていたので前が見えない傘のさし方をしていたら、横から自動車が来ていたのがわからなかった。傘が車と接触した。	57歳	女性
	20	雨が降っていた為、傘をさして歩道を歩いていたら、前方から傘をさしたままスピードを出して走って来た自転車とぶつかりそうになった。	61歳	女性
	21	歩道を歩いているときに、向かい側から来た人があまり端によってくれなくて、相手の傘が私の顔に当たり目を突きそうになった。	61歳	女性
風	22	風が強い大雨の日に、ビニール傘を差しながら道を歩いていたら、突然の強風にあおられて傘が折れ、その破片で指をケガをした。	18歳	女性
	23	小学生の時、学校内を帰宅するため傘をさして歩いていると、突風が吹き、一瞬空を飛んで、1メートル先のフェンスにたたきつけられた。	18歳	男性
	24	傘をさしながら歩いていた所突風が吹き、転倒しそうになった。	21歳	男性
	25	傘をさしていたら風がふいて傘があおられて転び、膝をすりむいた。	33歳	女性
	26	雨が強く降っていて強く傘を握っていたのに、急に風向きが変わって傘を地面にたたきつけそうになった。	41歳	男性
	27	小雨だったので、こちらも悪いと知りつつ傘をさして自転車で乗った。思ったより風が強くて、視界が悪く、路地から出てくる車が見えづらかった。風にあおられ、片手で自転車を操作しづらくよろよろしてしまった。結果は何もなし。大げがしていてもおかしくはなかった。	41歳	女性
	28	激しい雨の時、階段下からの強風で傘の柄が折れ曲がり、その柄が目刺さりそうになった。	48歳	男性
	29	風雨の強い日に、前から歩いてくる人が風にあおられてビニール傘持った手を離してしまい、広げたまの傘が歩道で弾みながら飛んできた。前に向けた私の傘をかすってもっと転がって行ったけれど、直撃されたら怪我しそうな勢いだった。	57歳	女性
	30	小雨の時に歩道を歩いていたら、前を歩いている人の傘が風にあおられ、その人の手を離れて飛ばされ、私の顔に当たった。傘の骨が目にならなくて良かった。	58歳	男性
	31	風の強い日でも雨も強く降っていた。歩道に壊れた傘が捨ててあり、強風に煽られ自分の方に飛んできた。何とか身体をかわしてぶつかるのを避けた。	65歳	男性
遊び	32	友達と傘を振り回して遊んでいたら、たまたま通りかかったバイク便の人に当たりそうになった	16歳	男性
	33	小雨で友達が傘を差しながらふざけていたら、傘の骨組みの骨の先が目に入りそうになった	19歳	女性

(3) 降雨時以外（たたんだ状態）の「傘」

降雨時以外に傘を携行（たたんだ状態に）していたとき、1,260 人にヒヤリ・ハットや危害経験があった。

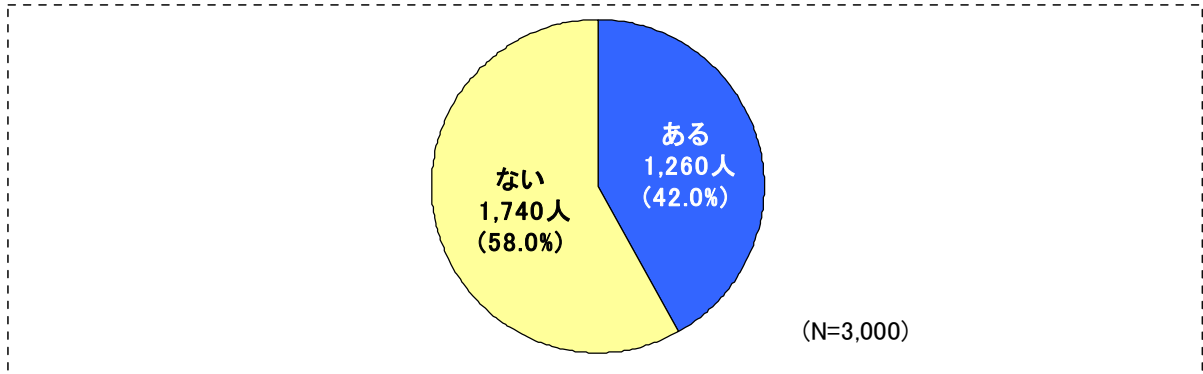


図 3-3 降雨時以外（たたんだ状態）の「傘」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

具体的な内容では、「駅の階段やエスカレーターで前の人が傘を水平に持つ（振る）」に近い状況でのヒヤリ・ハットが経験者の約 6 割に見られた。その際、傘が「顔をかすめた」、「突かれそうになった」、「刺されそうになった」等の表現をした人が多く、ケガに至らなくとも傘の携行時における不快感や恐怖・怒りを感じる印象的な経験だったことが読み取れる。



表 3-3 降雨時以外(たたんだ状態)の「傘」でのヒヤリ・ハットや危害経験

項目	No.	具体的な事例	年齢	性別
傘を水平に携行	1	前を歩く何人かが、駅が混雑してるにも関わらず、傘を腕の動きと一緒に動かして歩いていた。(傘の先の部分を下に垂らした状態ではなく、後ろに突き刺す感じ)	18歳	女性
	2	駅の階段で、水平持ちをしている人の後ろにいたら胸を突かれた	33歳	男性
	3	傘を水平に持っている人がいて、首を突かれたので文句を言ったが「ダカラ何」と言われたので警察で被害届けを提出したら、謝ってきたが、時すでに遅し。被害届けは取り下げはしなかった	34歳	男性
	4	傘の本体を握り、水平にして、かつ前後に振りながら歩く人がいて、突かれそうになった。	37歳	男性
	5	傘を持った方の手を無神経に振って歩く人が多く、いつも危ないと思う。特に駅の階段は怖い。年齢性別に限らず、無神経な人が増えていると思う。	38歳	女性
	6	駅や街中で傘を水平に持ち歩いている人が多すぎる。後ろを歩いていて、「傘がヤリのようなので、気をつけよう…」と思っていた矢先に、前の人が急に立ち止まり、傘の先が私に当たった。もちろん、文句を言いました。	41歳	女性
	7	駅の階段、後ろに刺さるのを意識してないで振りながら歩いている人がいて、突き刺されそうになったが叩き落とすようにガードした。	43歳	女性
	8	傘を真横にして持っている人がいるので顔に触れそうになりいつも怖い思いをしています。あの持ち方は危ないのでやめてほしいです。	45歳	女性
	9	ビジネスバッグに長傘を入れてかばんのふたをしていた人。動かないだけに余計に迷惑。	50歳	女性
	10	たたんだ傘を水平持ちしている人がいて、突かれそうになったので、持っていた傘で叩き落とした。ケンカになるかと思った。	52歳	女性
	11	駅の階段で、傘を水平にもってしかも腕をふって歩くので突かれそうになった。子供は目線になるので怖かった。	52歳	女性
	12	駅の階段を上っている前の人の傘の先端が胸あたりに刺さりそうになった。	52歳	女性
その他	13	満員電車で刺された。	25歳	男性
	14	小学生の男の子が何人か、かさを振り回しながら走っていて、目にぶつかりそうになった。怒りを覚えた。	38歳	男性
	15	自転車に乗って水平に傘を持っている人がバランスを崩したときに傘の先がこちらを向いていて刺さった。	44歳	女性
	16	駅のホームで傘でゴルフのスウィングをしている人を横切る時に当たりそうになった。	44歳	男性
	17	駅ホームの狭い部分で斜めに持った人の傘につまずきそうになり怖い思いをした	49歳	女性
	18	小学生の子供が傘をバットの様に振り回しており危うく刺されそうになった。小学生は謝りもしなかった。	49歳	男性
	19	満員電車で傘を水平に持っていた傘が、私の脇腹にぶつかり、肋骨にヒビがはいった。	52歳	女性
	20	満員電車で、降りようとした人の傘の柄がコートのポケットに引っかかって引っ張られてよろけた。	63歳	女性
	21	駅の通路で長い傘を振りながら走ってくる人の傘が足の間に入り転倒	64歳	女性

(4) 降雨時における「履物(足元)」＜男性の場合＞

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験については、性別によって履物の種類が異なるため、男女別に調査を行った。

男性の場合、1,500 人中 626 人が降雨時に「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験があった。経験の内容については、「滑って転んだ、転びそうになった」が 523 人と最も多く、次いで「つまずいて転んだ、転びそうになった」75 人と続く。年代別では、40 代：131 人、50 代：124 人、30 代：110 人、60 代以上：108 人と大きな差異はないが、20 代：85 人、10 代：68 人と、10～20 代がやや少ない。

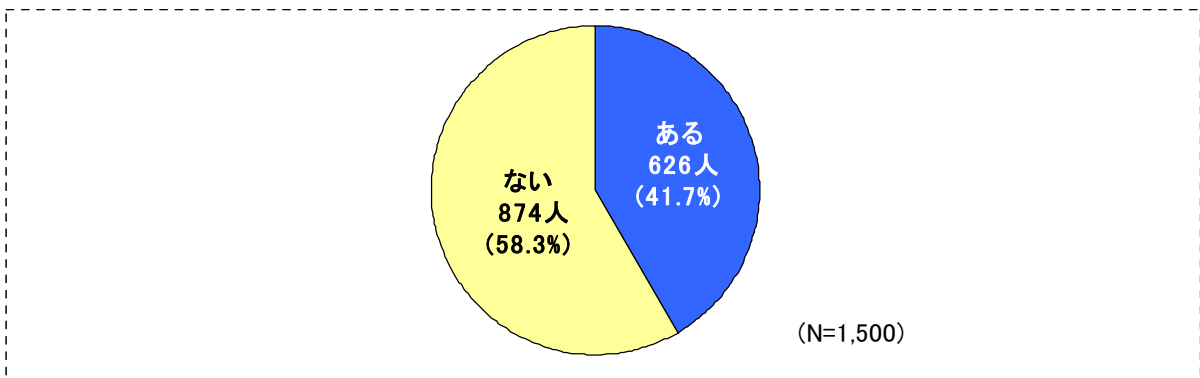


図 3-4-1 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験(男性)の有無

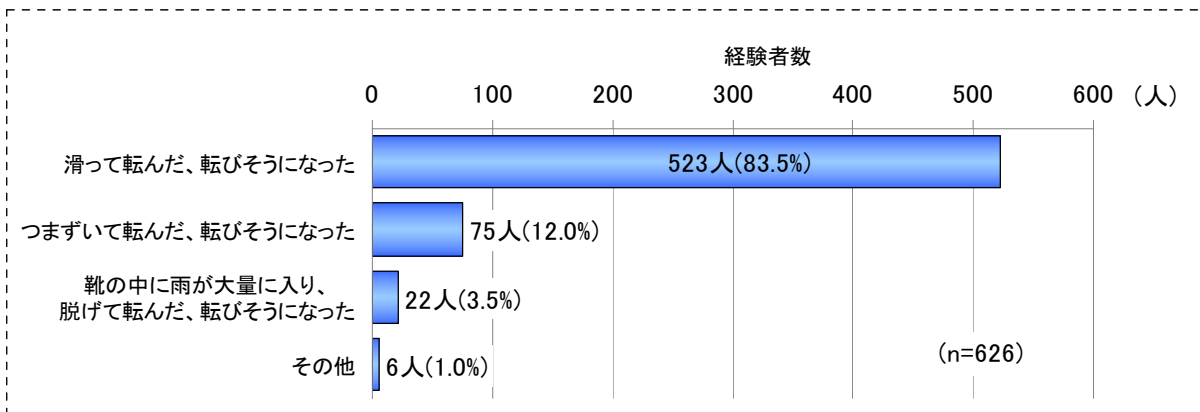


図 3-4-2 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験(男性)



イ ヒヤリ・ハットや危害経験をした際に履いていた靴の種類

降雨時に、滑ったり転んだり等、上記アでのヒヤリ・ハットや危害の経験をした際に履いていた靴の種類では、「革・合皮の靴」が 377 人と最も多く、次いで「運動靴」176 人、「サンダル（つっかけ）」30 人と続く。

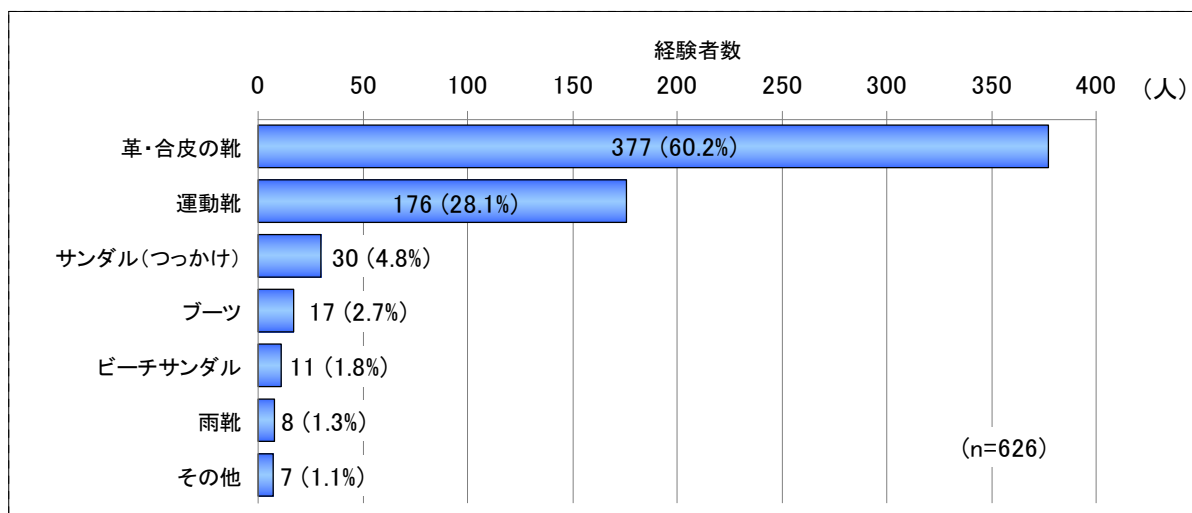


図 3-4-3 「履物(足元)」におけるヒヤリ・ハットや危害経験をした際の靴の種類(男性)

ウ ヒヤリ・ハットや危害の程度

男性における降雨時の「履物(足元)」での危害またはヒヤリ・ハットの程度については、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が 511 人と約 8 割を占めているが、47 人がケガをしており、うち 12 人が医療機関を受診し、1 人が入院に至っている。

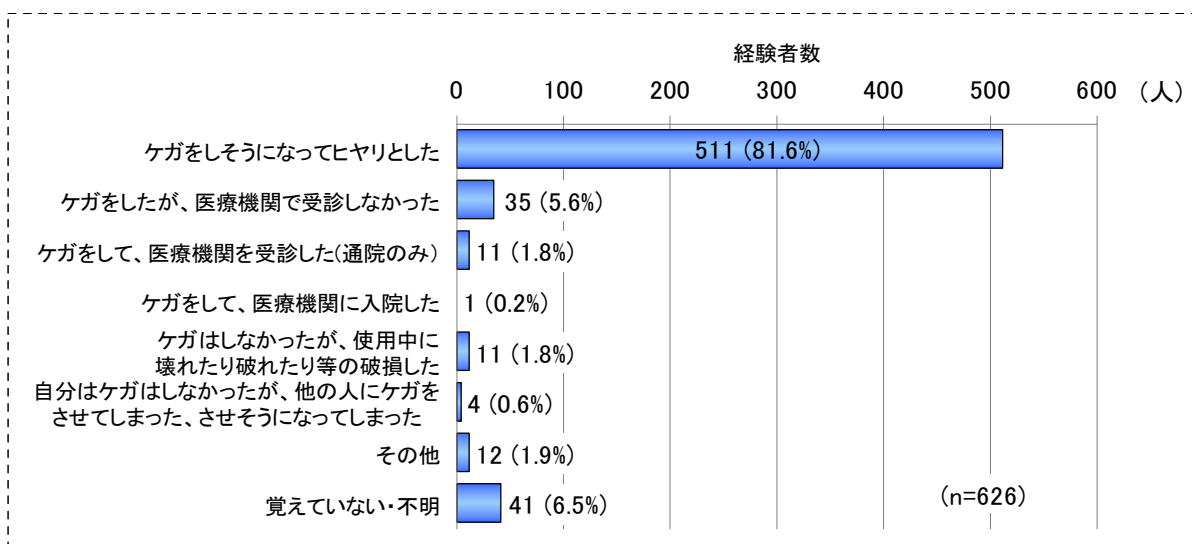


図 3-4-4 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験の程度(男性)

エ ヒヤリ・ハットや危害の経験をした場所

ヒヤリ・ハットや危害経験をした場所としては、「傾斜のない歩道」が 180 人と最も多く、次いで「傾斜のある歩道」119 人と、傾斜の有無にかかわらず、歩道での経験が約半数を占めている。傾斜の有無を合わせた「建物のエントランス」75 人、「駅の構内」69 人、屋内外の「階段」87 人となっている。傾斜の有無では「ない」309 人、「ある」177 人と、「ない」場所での経験の方が多し。また、「屋内の階段、エスカレーター」や「駅の構内」等、雨が直接当たらない場所での経験者が 138 人いた。

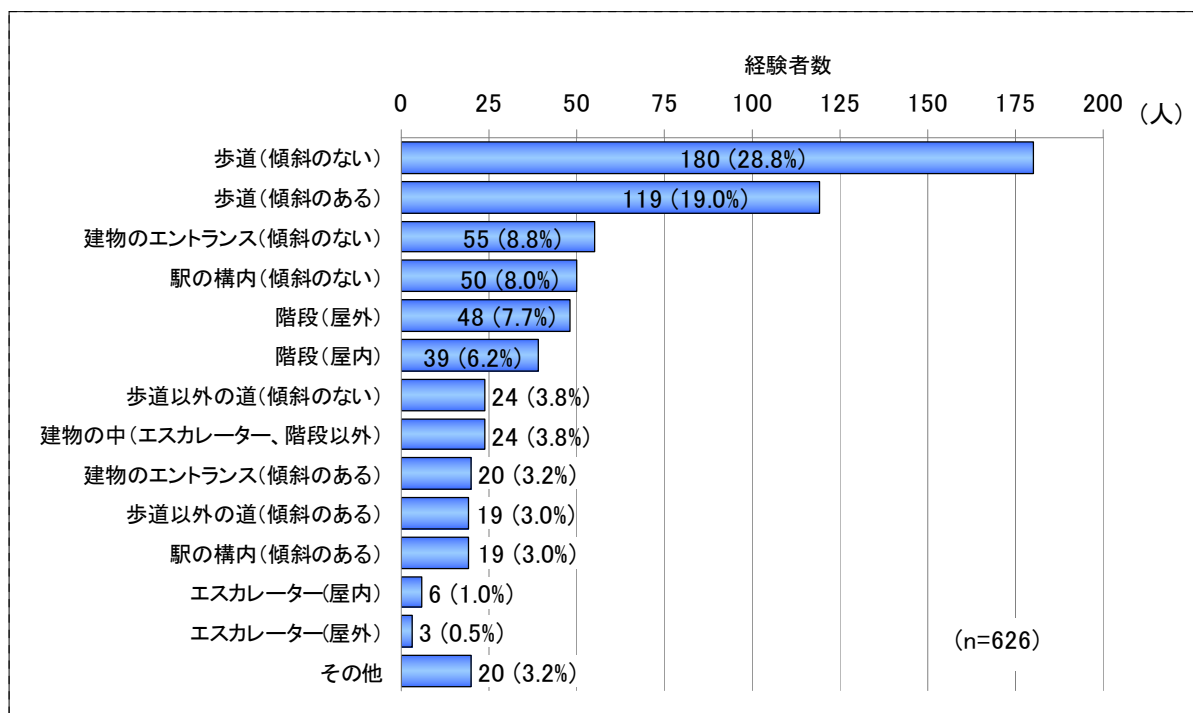


図 3-4-5 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験の場所(男性)

オ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

「滑った、転んだ」等、「履物(足元)」に関するヒヤリ・ハットの具体的な内容では、「マンホールの蓋で滑った」(24 人)、「タイル張りの道や施設等で滑った」(48 人)等が特徴的である。

表 3-4 降雨時における「履物(足元)」に関するヒヤリ・ハット経験の具体的な内容(男性)

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	雨の降っている日、電信柱を避けるとそこにはマンホールがあり、その上を行こうとして滑ってしまって手を強くついでしまった。	18歳	男性
2	割と新しい革靴で歩いているときに、枯れ葉の多い道で滑りそうになった。	19歳	男性
3	雨が降っていた、濡れた道。タイルの道で傾斜があり、普通のスニーカーのような靴で滑ってしまった。晴れている日はなんともない道だったので、濡れるとすべるようだ。	30歳	男性
4	小雨が降ってきたので小走りで建物に入ろうとしたら、タイルが滑る素材だったため転んで尻餅をついた	33歳	男性
5	雨のとき、マンションのエントランスで、つるつるのタイルに足を取られて滑った	42歳	男性
6	雨で下がぬれており、グリップの弱い革靴ですべり、ころびそうになった	53歳	男性
7	運動靴で歩道を歩いていたらずまずい転びそうになった	64歳	男性
8	マンションの廊下で滑って頭をコンクリートの角にぶつけて三針縫う怪我をして救急車で運ばれた。	64歳	男性

(5) 降雨時における「履物(足元)」＜女性の場合＞

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

降雨時における「履物(足元)」について、女性1,500人中691人にヒヤリ・ハットや危害経験があった。内容については、「滑って転んだ、転びそうになった」が691人中591人と、8割以上を占めて最も多く、次いで、「つまずいて転んだ、転びそうになった」62人と続く。

年代別では、30代、40代がともに131人と最も多く、50代：118人、10代：110人、60代以上：108人と続き、最も少ない20代では93人だった。

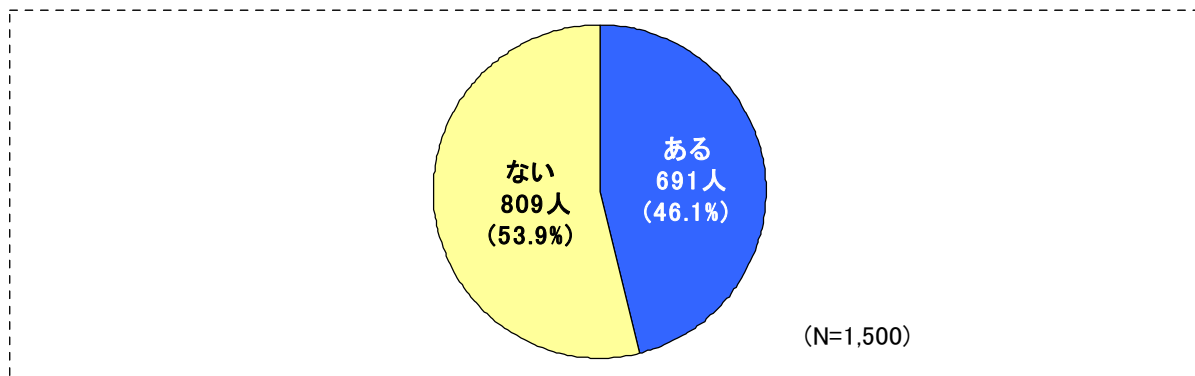


図 3-5-1 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験(女性)の有無

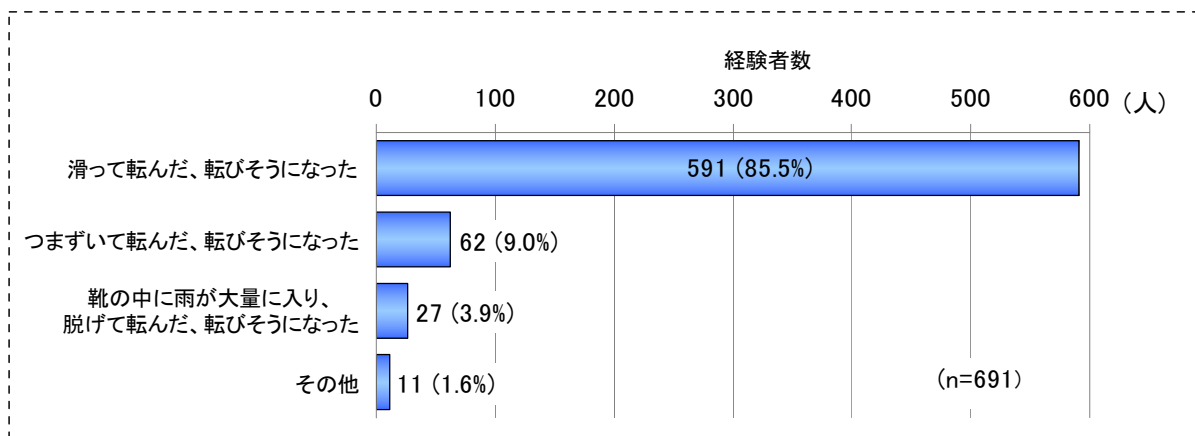


図 3-5-2 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験(女性)

イ ヒヤリ・ハットや危害経験をした際に履いていた製品

女性における降雨時のヒヤリ・ハットや危害の経験をした際に履いていた靴の種類については、「革・合皮の靴」が327人と最も多く、次いで「運動靴」111人、「ブーツ」110人とほぼ並んでいる。また、「雨靴」での経験者も29人いた。

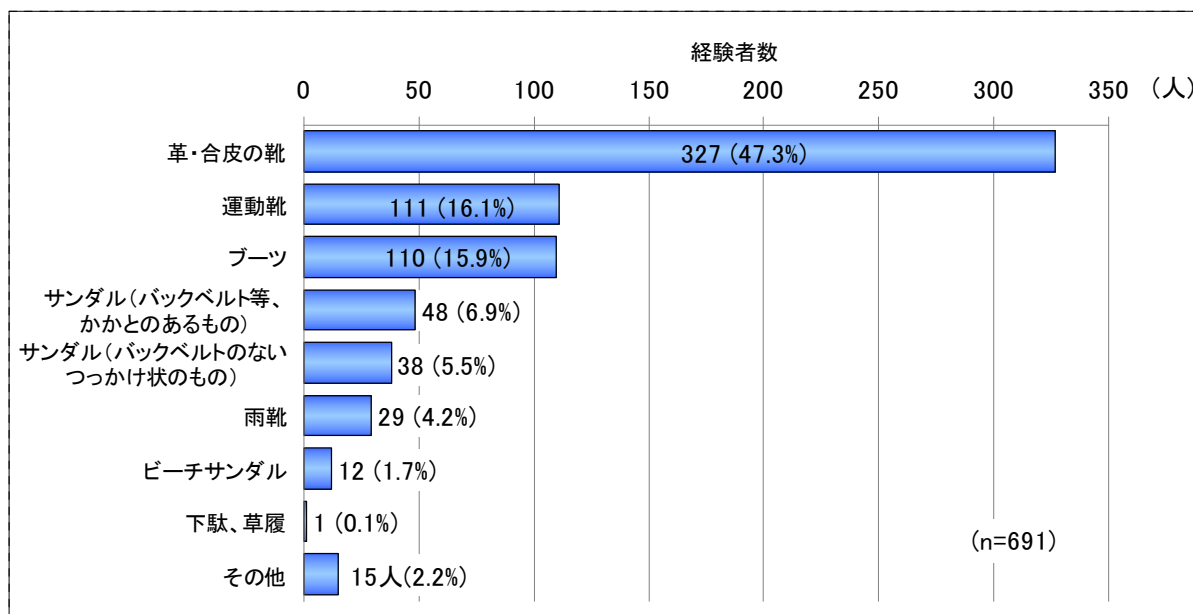


図 3-5-3 「履物(足元)」におけるヒヤリ・ハットや危害経験をした際の靴の種類(女性)

ウ ヒヤリ・ハットや危害の程度

女性における降雨時の「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害の程度として、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が555人と最も多く、約8割を占めているが、72人はケガをしており、そのうち25人は医療機関で受診している。

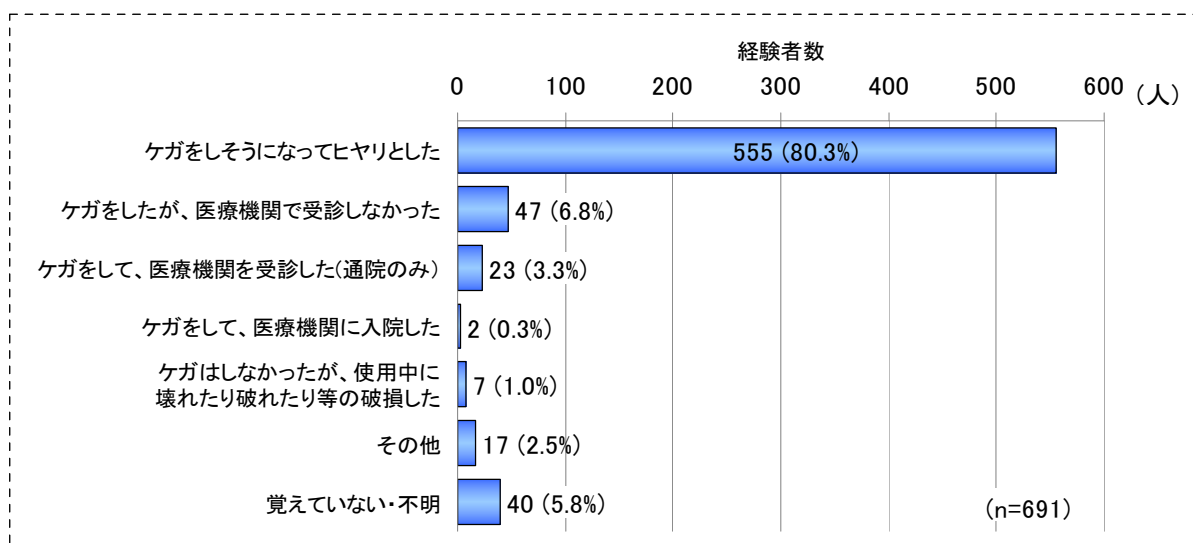


図 3-5-4 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験の程度(女性)

エ ヒヤリ・ハットや危害の経験をした場所

女性における降雨時の「履物（足元）」でのヒヤリ・ハットや危害経験をした場所として、「傾斜のない歩道」が176人、次いで「傾斜のある歩道」95人となっており、両方をあわせた「歩道」が271人と、経験者全体の約4割を占めている。次いで傾斜の有無を合わせた「建物のエントランス」101人、「駅の構内」87人、屋内外の「階段」91人となっている。傾斜の有無では「ない」場所での経験が多い。また、「屋内の階段、エスカレーター」や「駅の構内」等、直接雨のあたらない場所での経験者も180人と、経験者の約4分の1を占めた。

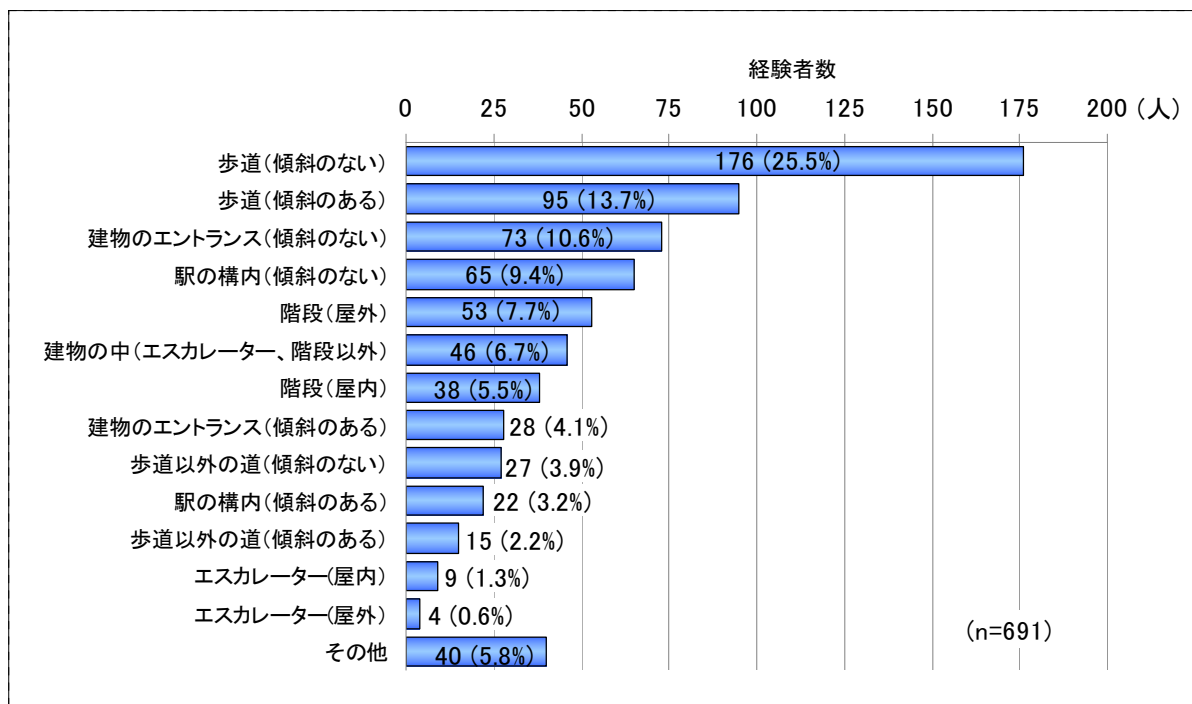


図 3-5-5 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験の場所(女性)

オ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

女性における降雨時の「履物（足元）」でのヒヤリ・ハットや危害経験の具体的な内容については、「道路上の原因（横断歩道の白線、点字ブロック、工事現場の鉄板）」という場所の特徴が約4割あった。次いで、「ヒールの高い靴(階段を下りる時、滑りやすい床でバランスを崩しやすい時など)」という靴での特徴が約2割あった。

表 3-5 降雨時における「履物（足元）」に関するヒヤリ・ハット経験の具体的な内容(女性)

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	大雨が降っているときヒールのある靴で友達と会っていて、帰るときに足元に気をつけることができなくてつまずいてしまった。	16歳	女性
2	ハイヒールのパンプスをはいていたのでバランスを崩して足首をねんざした	18歳	女性
3	雨でぬれた路上をパンプスで歩いていたところ、滑ってひざをついた	19歳	女性
4	大雨時、歩道と車道の境目の斜めになっている部分で足を滑らせ、車道に飛び込んでしまった。危機一髪のところまで歩道に戻れたが危なかった。	19歳	女性
5	マンションの通路が湿気でつるつると滑りやすい状態になっており、ヒールのある靴を履いていたので滑った。	28歳	女性
6	防水のスニーカーの裏がすべりやすく、たまにツルッとこぼそうになる	33歳	女性
7	どの靴でも滑り止めに靴修理屋さんにつけてもらうので、あらゆる靴であります。場所も歩道や、駅の所、バスの中、目の見えない人用の黄色い線、雨の時は普通の滑り止めでは滑り易くなるものが沢山あります。	36歳	女性
8	長ぐつをはいていましたが エスカレーターも濡れていて溝の縦方向につると滑りました。幸いすぐに手すりをつかんだので転ばないで済みました	40歳	女性
9	雨の時、バックストラップのハイヒールを履いていて、かかとの方から雨が入って濡れて、靴の中で足が滑って、足首をひねり、バランスを崩した。転ぶことはなかったが、とてもびっくりした。	48歳	女性
10	駅ホームの視覚障害者用ブロックが雨でぬれていて、電車に乗ろうと走ったとき滑ってスライディングの様な形で転び、足腰鞭打ち、さらに顔をすりむいて、翌日全身あざで整形外科に行き、3カ月通院した	50歳	女性
11	雨の降った夕方室内の階段で濡れていた。急いで帰ろうとしていたのでエレベーターを待たず階段をパンプスでトントンと降りていたらすべって階段から落ちた。床に突っ伏したまま起き上がれずいたら、エレベーターから降りてきた社員に発見され、オンパで目の前の病院に直行。足首が折れていた。	54歳	女性
12	バスから降りる時にバスのステップの所が雨でぬれていたの滑ってしまい、そのまま路上に尻もちをついてしまいました。	63歳	女性
13	雨模様の日に、帰宅途中の歩道橋を渡った時。下りの階段を下り始めたその時、革底のローヒールが滑り、アツと言うまもなく転びそうになった。運良く直ぐ横の手すりにはがみつことができ、足首を少し痛めただけです。	64歳	女性
14	雨天だったので、鉄製のマンホール(坂道にある)の上を歩いた時、ズルッと滑ってこぼそうになった	65歳	女性
15	陸橋の階段を下りていた時、濡れたステップを踏み外して落ちこちそうになり、手すりにつかまり踏みとどまったが、とても恐怖を感じた。	65歳	女性
16	水が少したまり気味な道で、裏がすり減ってきたウォーキングシューズを履いていて、滑りそうになった。	67歳	女性

(6) レインコート・ポンチョ・帽子

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

降雨時における「レインコート・ポンチョ・帽子」の着用時について、3,000人中204人にヒヤリ・ハットや危害経験があった。内容については、「フード、帽子で視界が悪くなり自動車やバイクにぶつかった、ぶつかりそうになった」が41人と最も多く、次いで、「フード、帽子で視界が悪くなり人や自転車にぶつかった、ぶつかりそうになった」38人、「フード、帽子で視界が悪くなり、電信柱等のモノにぶつかった、ぶつかりそうになった」29人、「フード、帽子で視界が悪くなり、信号無視してしまった」5人と、視界不良によるヒヤリ・ハット経験が113人と、半数以上を占めた。

年代別では、10代、60代以上が39人と最も多く、40代：37人、50代：36人とほとんど同数である。続く20代：28人、最も少ない30代が25人と、年代による目立った特徴は見られない。

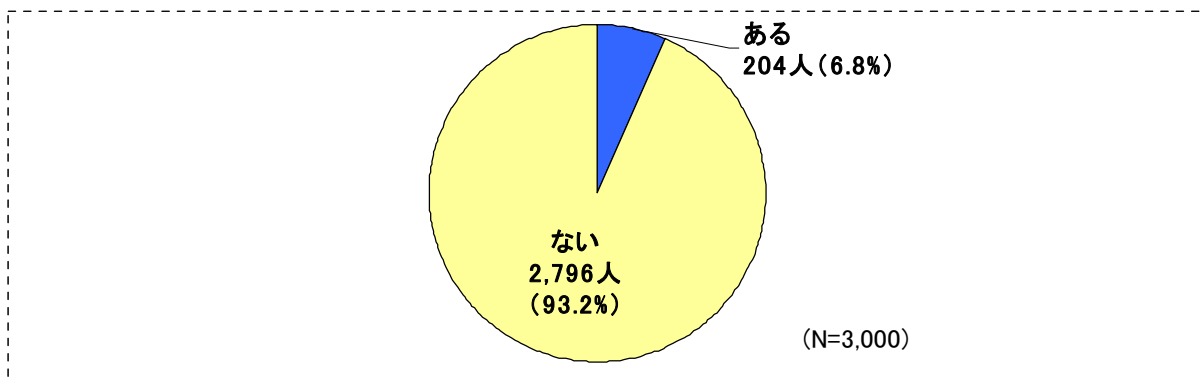


図 3-6-1 降雨時における「レインコート・ポンチョ・帽子」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

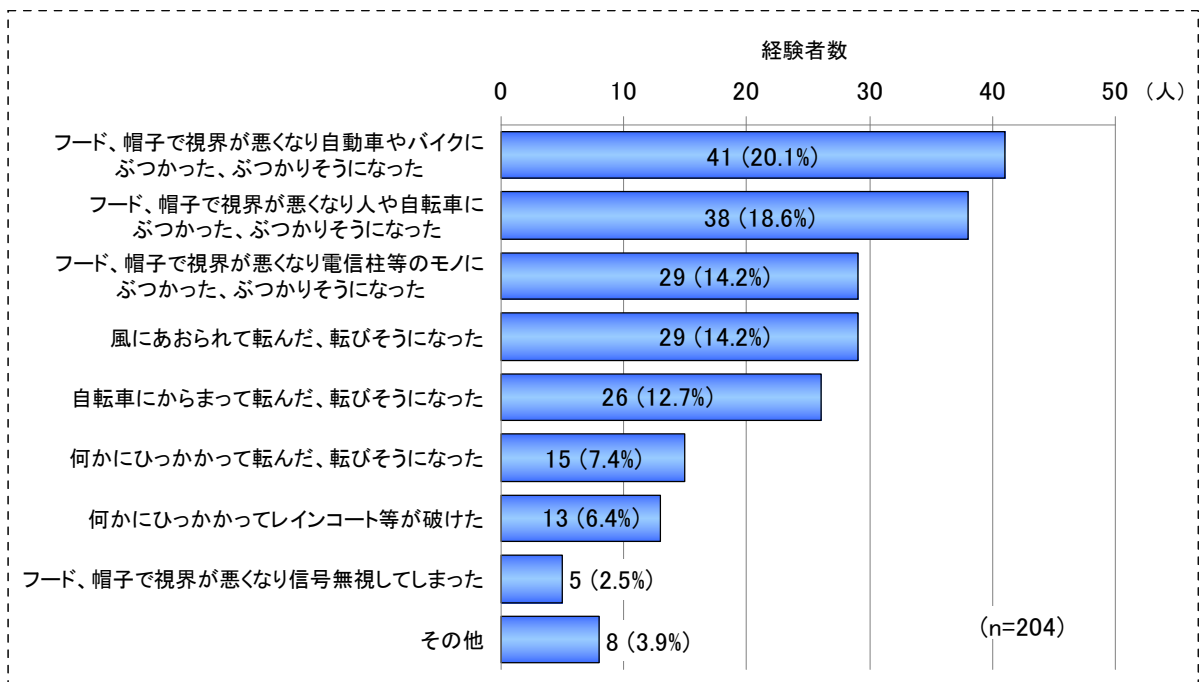


図 3-6-2 降雨時における「レインコート・ポンチョ・帽子」でのヒヤリ・ハットや危害経験

イ ヒヤリ・ハットや危害の程度

降雨時の「レインコート・ポンチョ・帽子」でのヒヤリ・ハットや危害の程度については、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が 204 人中 146 人と最も多いが、14 人がケガをしており、うち 2 人が入院に至っている。

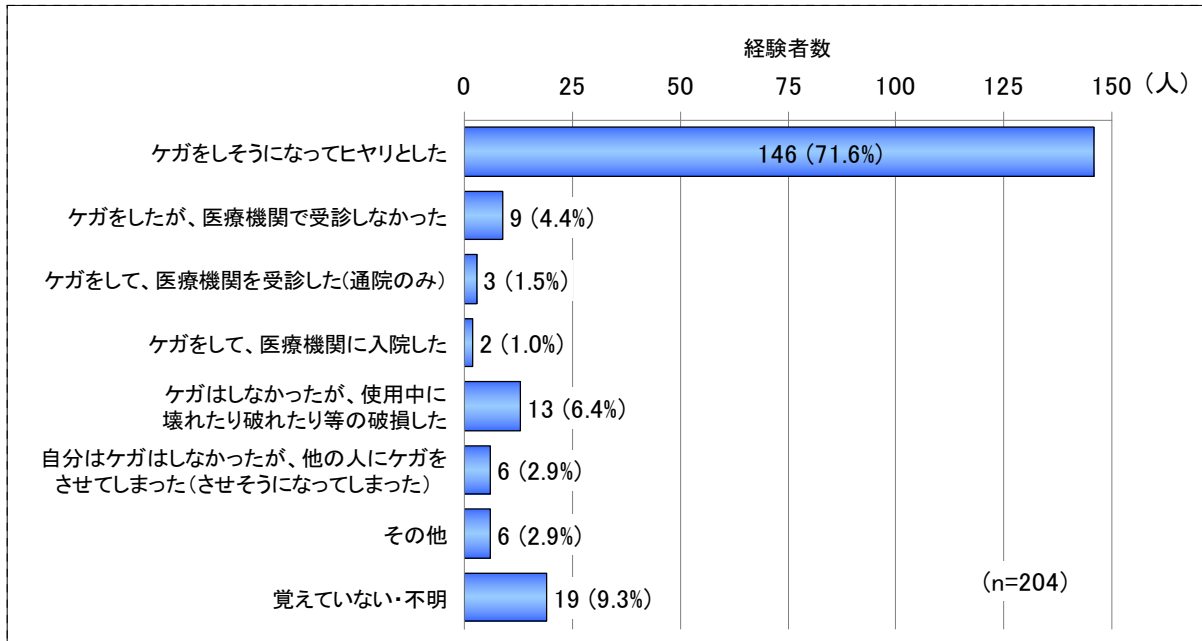


図 3-6-3 降雨時における「レインコート・ポンチョ・帽子」でのヒヤリ・ハットや危害経験の程度



ウ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

具体的な内容では、「自転車に乗っているとき、レインコート・ポンチョのフードが目にかぶさった」という経験が多く見られる。また同時に、音も聞こえにくくなって車両に気づけなかったという事例も複数あった。ポンチョ、レインコート等のヒヤリ・ハット経験のほとんどが自転車運転時のものである。また、レインコート・ポンチョ類は、身体にフィットしないことも多く、自転車に絡まったり、何かに引っかかったりという経験も見られる。

表 3-6 降雨時の「レインコート・ポンチョ・帽子」におけるヒヤリ・ハット経験の具体的な内容

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	雨の際に、レインコートを着て自転車をこいでいたら自転車のチェーンに絡まって転びそうになった	17歳	男性
2	小雨時、自転車に乗っていたら、帽子が風であおられ、電信柱に自転車ごとぶつかってケガをした。	19歳	女性
3	ポンチョが自転車のペダルに引っかかって転びそうになった。	28歳	男性
4	フードが木に引っかかり転びそうになった。	36歳	男性
5	子どもを保育園に連れて行く時はレインコートをかぶってフードもかぶるので、視界が遮られる上に、音も聞こえないので、車の気配に全く気付かない。前しか見えない。交差点などで止まって、左右を確認する時も体をかなりそらさないと確認できず、そうなると前後に30kg以上乗せているので、バランスがとれずに転倒の原因にもなる。傘は危ないと言われているし、いけないらしいので使用していないが、レインコートの方がヒヤットとする場面が多い。	37歳	女性
6	フードを被って自転車を運転していた所、脇から、人が飛び出してきたにも関わらず、視界が狭く、耳もフードでふさがっていたため、人の気配音も聞こえずらく、発見が遅れて、ぶつかりそうになった。	42歳	男性
7	ポンチョを着て自転車に乗っていたら、フードがくもってしまい周りが見えにくくなった。自転車をこぐのも怖くなったが、ゆっくり運転したので事故にはあわずにすんだ。	46歳	女性
8	朝方の雨が上がり、レインパーカーのジッパーを開けたまま自転車に乗っていたら、裾の調節ひもがガードレールに引っ掛かり、一瞬シューツと引っ張られ、ひもが引きちぎられた。けがはしなかったが、何が起きたのだろうと驚いた。	51歳	女性
9	小雨に強風という時で、レインポンチョのフードをかぶって自転車に乗っていたら前方からかなりの強風が来てポンチョがあおられて顔にはりつき、一瞬まったく前が見えなくなって、上り坂で横倒しになって転んでしまった。	52歳	女性
10	歯医者に行くとき、フード付きのレインポンチョを着て自転車に乗ったが、後ろを振り向くとほとんど見えないので後ろから自転車が来ても気が付かずぶつかりそうになった	62歳	女性
11	自転車で走っているとき、風でフードが深くかぶさり前が見えなくなり危険を感じた。	67歳	女性
12	レインコートのフードだけでなく、コートのフードはかなり左右の視野がふさがり、いつも危険を感じるので、最近レインハットにしている。	69歳	女性

(7) 自転車、電動アシスト自転車、原動機付き自転車、ベビーカー、車椅子、杖の使用経験

上記の製品について過去5年間における使用経験の有無を問い、使用経験者（以下、使用者）について、製品別にヒヤリ・ハット経験の質問を行った。

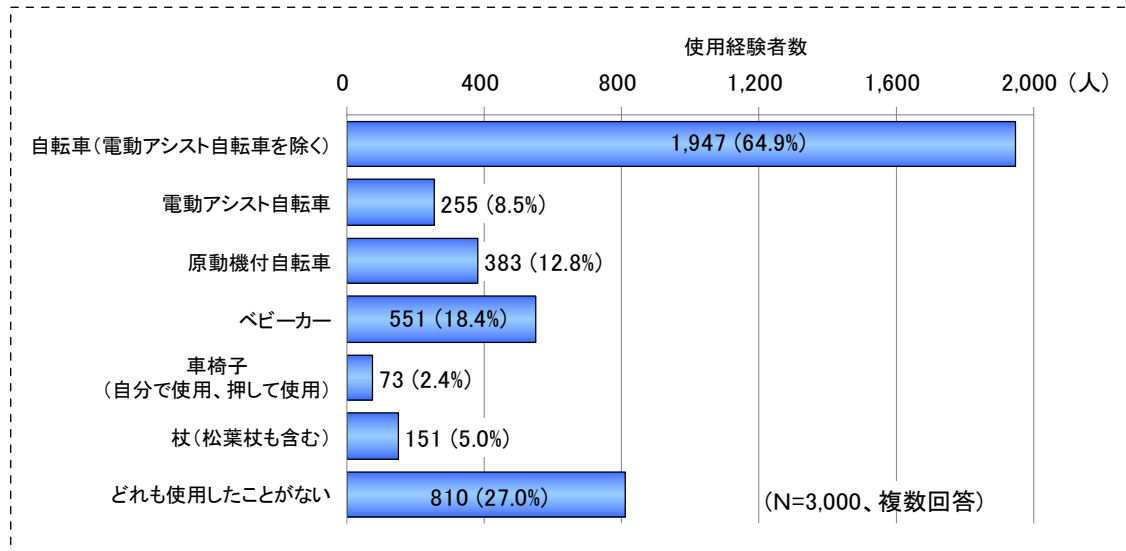


図 3-7 自転車、電動アシスト自転車、原動機付き自転車、ベビーカー、車椅子、杖の使用経験者

(8) 自転車（電動アシスト自転車を除く）

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

「自転車（電動アシスト自転車を除く、以下「自転車）」を使用したことのある 1,947 人中 750 人に、降雨時のヒヤリ・ハットや危害の経験があった。事例としては（複数ある場合は最も印象に残ったもの）「走行中、スリップして転倒した、しそうになった」が 363 人と最も多く、次いで「視界が悪くて人や車両、電信柱等にぶつかった、ぶつかりそうになった」135 人、「傘を差して走行中、人や車両、電信柱等にぶつかった、ぶつかりそうになった」113 人と続く。

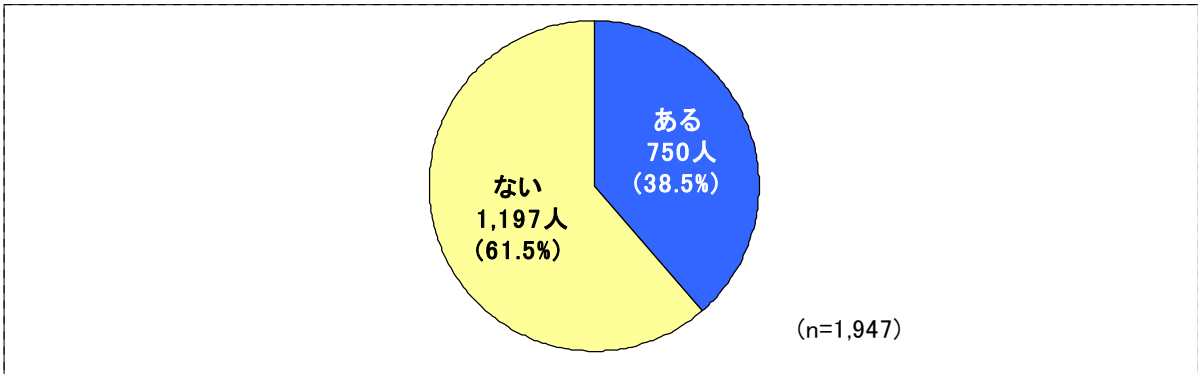


図 3-8-1 降雨時における「自転車」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

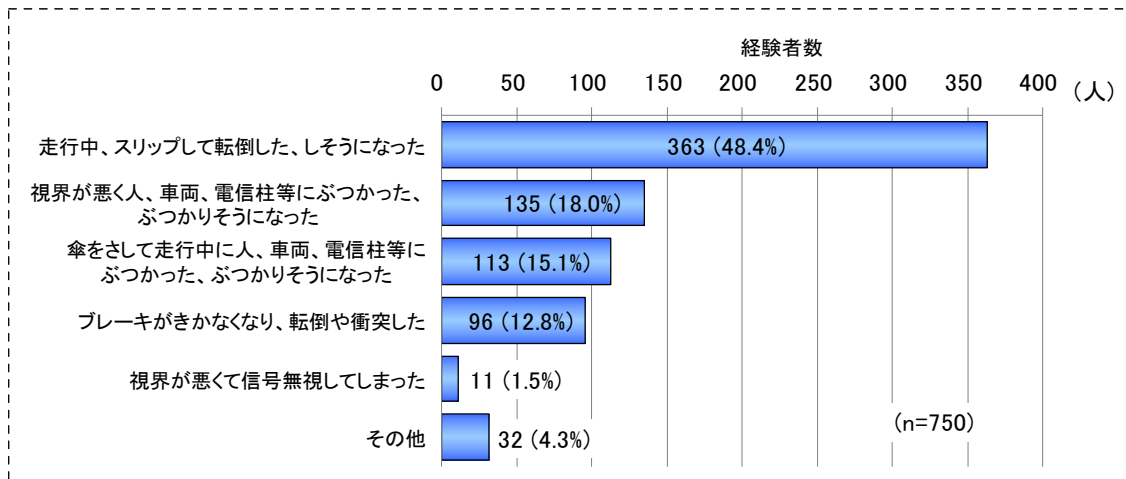


図 3-8-2 降雨時における「自転車」でのヒヤリ・ハットや危害経験

年代別で一番多いのが 10 代の 155 人というのが特徴的だが、一番少ない 50 代でも 101 人と 100 人を超えていることから、まんべんなく起こっていることがわかる。

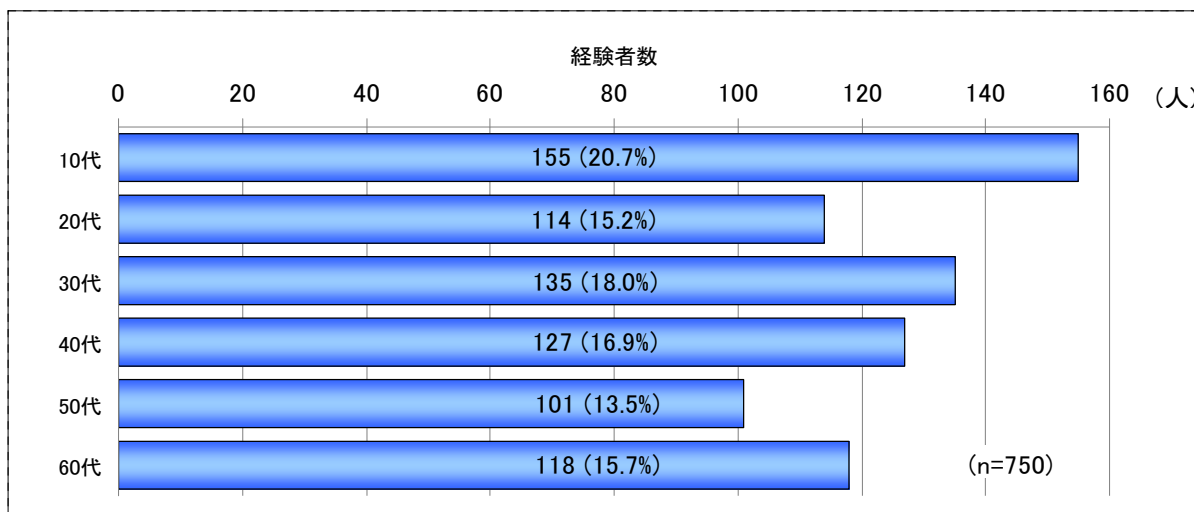


図 3-8-3 年代別にみた降雨時における「自転車」でのヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害の程度

降雨時の自転車でのヒヤリ・ハットや危害の程度としては、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が750人中496人と7割弱を占めるが、ケガをした人も133人おり、2人が入院に至っている。また「自分はケガしなくとも、他の人に危害を与えてしまった」16人、自転車を破損した人が32人いた。

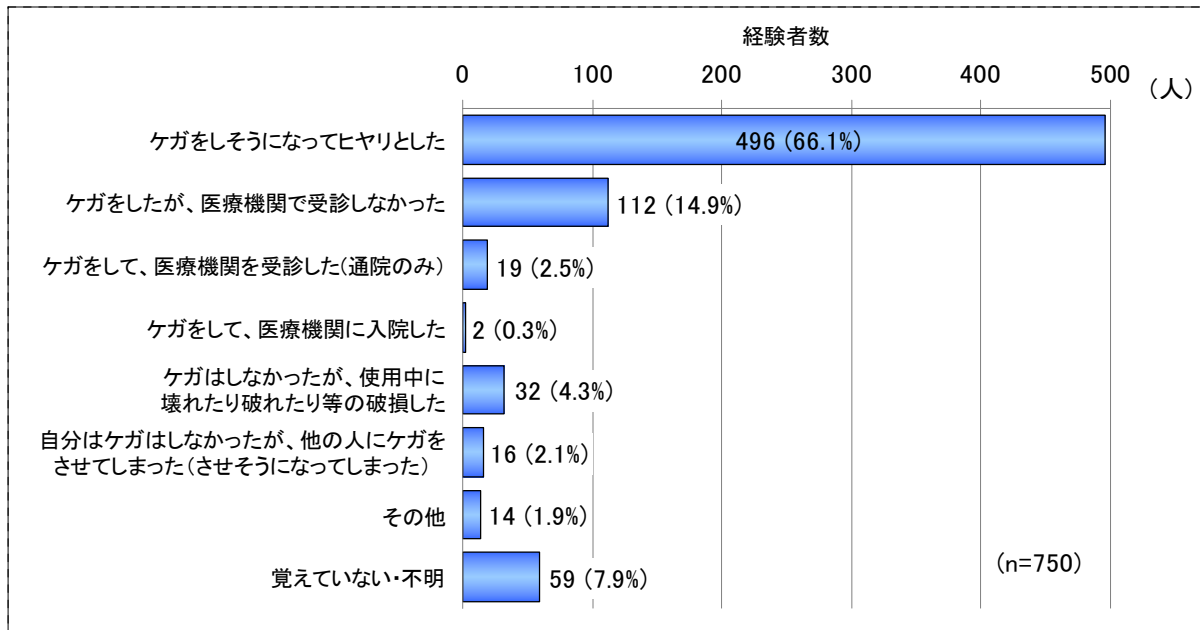


図 3-8-4 降雨時における「自転車」でのヒヤリ・ハットや危害の程度

ウ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

具体的な内容では、「咄嗟のブレーキが効かなかった」、「ブレーキをかけたことで滑った」等、ブレーキを起因とした回答をしているヒヤリ・ハット経験者が 117 人いた。その他では、ヒヤリ・ハットの場所として、マンホール：33 人、坂道：25 人という回答があった。

表 3-8 降雨時の「自転車」におけるヒヤリ・ハット経験の具体的な内容

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	降雨時に自転車に乗っていて、坂道でブレーキが効かなくなり、スリップしたのちに転倒し、大きな岩に顔面をぶつけて救急車で運ばれた	17歳	男性
2	小雨時、自転車で歩道を走行中、視界が悪かったため、街路樹にぶつかり、足首を捻挫した。	18歳	女性
3	前方から来る車のライトのせいで前にいる人に気付かなかった。	18歳	男性
4	角を曲がろうとして、スリップして転んだ。自分とはとさに自転車から降りて無事だった。	19歳	女性
5	雨の中、スピードを充分落とさずに曲がろうとしたところ、スリップして横転した。擦り傷程度だったので、自宅で応急手当をした。	23歳	女性
6	小雨が降っていて傘をささず運転していた。しかしメガネをしていたため視界不良となり、人にぶつかりそうになった。	27歳	女性
7	小雨時に自転車に乗っていてカーブを曲がろうとしたらマンホールでスリップして横転した擦り傷はおつたが大した怪我ではない	33歳	男性
8	小雨時、自転車に乗って道路を走っていたら目の前に自動車が停まっていたがぶつかったが遅いスピードだったので何事もなかった	39歳	男性
9	12月深夜、自転車で帰宅中、急な降雨で体が冷え、とくに手がかじかんで運転が定まらず、怖い思いをした。	41歳	男性
10	小雨時に買い物をした帰り自転車に乗って走っていたら、道路の段差でスリップして倒れ、両膝を打撲した。	44歳	女性
11	小雨時、自転車に乗って走っていたら急に小学生が飛び出してきた。ブレーキをかけたが、丁度横断歩道のベンキの上でスリップして小学生に激突した	44歳	女性
12	小雨時、自転車で坂道を降り切ったところでブレーキをかけたところ、タイヤがすべって転び、右ひざを深く擦り、出血したが、医者には行かずに回復させた。	45歳	男性
13	坂道を傘をさして走っていたら、ハンドルをきりそこなって、民家の塀に激突した	49歳	女性
14	自転車で坂道を下っていると、雨でブレーキが効かず、「どいてー」と叫んだが歩いている人にぶつかり、自転車を倒してしまった。	50歳	女性
15	レンガ通りという名が付いているように、下がレンガみたくなっていて、しかも坂でスピードが出すぎて転んだ。	52歳	男性
16	転びそうになったのでブレーキを使用したのですがすぐストップせず隣の家の塀に激突。肩骨折、顔面殴打	57歳	女性
17	雨が降っていた時、自転車に乗って車道を走っていて、途中で歩道の方に移ろうとした時、車道と歩道の段差の鉄製のレールのようなもので滑って転倒した。翌日、肩の脱臼と診断され3ヶ月ほど通院した。	62歳	女性
18	スリップして転倒していた。頭をひどく打ちつけたみたいで、転倒したときの記憶は未だに戻らない。気がついたときは、救急車で運ばれていた。外傷性のくも膜下出血ということで、3週間入院した。	67歳	女性
19	夕方自動車のライトに照らされ、人が識別出来なかった	77歳	男性

(9) 電動アシスト自転車

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

「電動アシスト自転車」を使用したことのある 255 人中 50 人に、降雨時のヒヤリ・ハットや危害の経験があった。事例としては（複数ある場合は最も印象に残ったもの）「走行中、スリップして転倒した」が 22 人と最も多く、次いで「視界が悪くて人や自転車にぶつかった、ぶつかりそうになった」11 人、「傘を差して走行中に人、車両、電信柱等にぶつかった、ぶつかりそうになった」8 人と続く。

年代別では、使用者の多い 40 代が 16 人と最も多く、60 代以上：11 人、50 代：6 人と続き、10 代、20 代、30 代が 5 人だった。

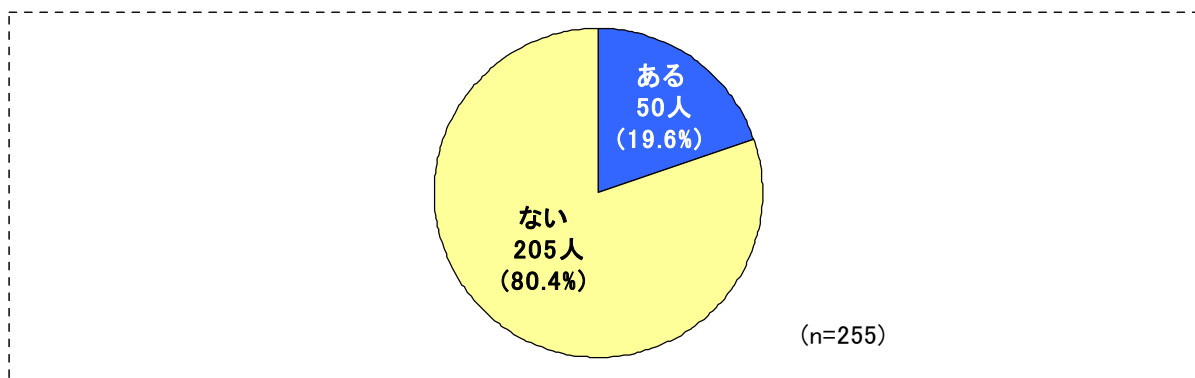


図 3-9-1 降雨時における「電動アシスト自転車」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

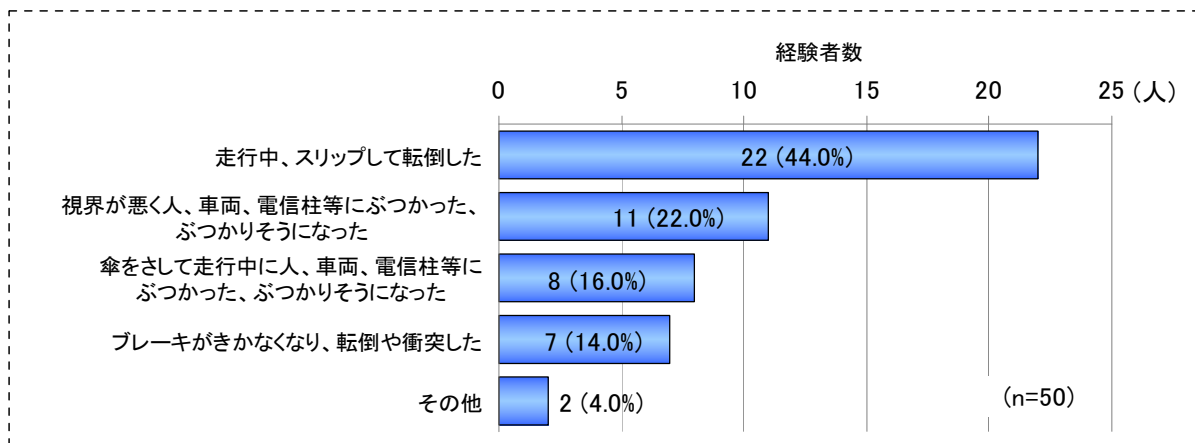


図 3-9-2 降雨時における「電動アシスト自転車」でのヒヤリ・ハットや危害経験

イ ヒヤリ・ハットや危害の程度

降雨時の「電動アシスト自転車」でのヒヤリ・ハットや危害経験の程度としては、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が50人中37人と最も多いが、7人がケガをしており、2人が医療機関の診療を受けている。「自分はケガをしなかったが他の人にケガをさせてしまった、させそうになってしまった」も2人いた。

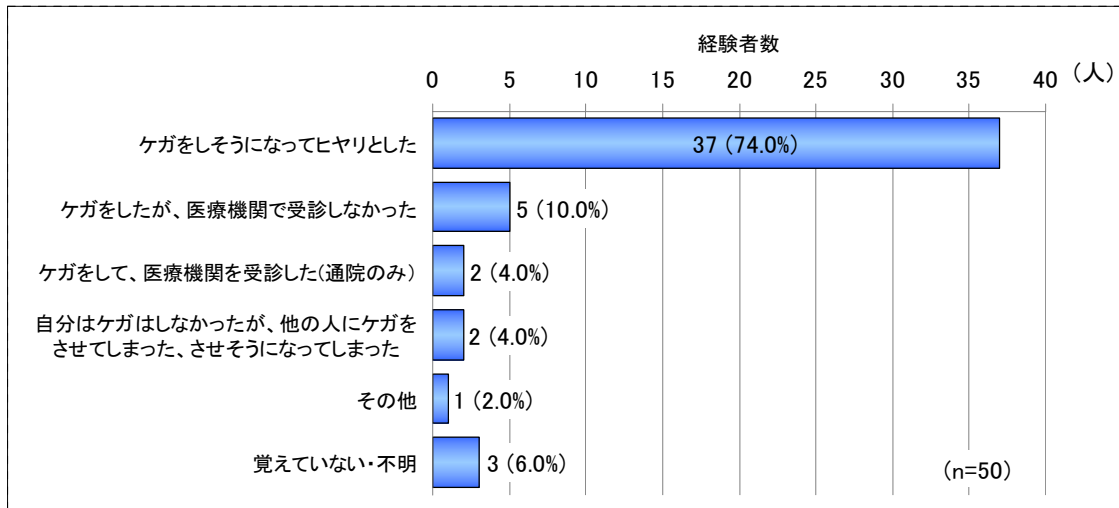


図 3-9-3 降雨時における「電動アシスト自転車」でのヒヤリ・ハットや危害の程度

ウ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

電動アシスト付き自転車でのヒヤリ・ハットで降雨時に特化したものは、スリップによる転倒等、先の自転車の例とほとんど同じである。

また、降雨時に限られたものではないが、「信号待ちをされていて青になったのでスタートしようとしたら、思いのほかスピードが出てしまいビックリして転びそうになった。」(46 才/女性)、「子供を前後に乗せていてバランスを崩して倒れた。電動アシスト自転車がかもともと重いのと子供の重みで倒れるのをとめることができなかった。」(33 才/女性)等、電動アシスト自転車という製品独特のヒヤリ・ハット経験の事例があった。

(10) 原動機付自転車

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

「原動機付自転車」を使用したことのある 383 人中 126 人に、降雨時のヒヤリ・ハットや危害の経験があった。事例としては（複数ある場合は最も印象に残ったもの）「スリップして転倒した」が 61 人と最も多く、次いで「ブレーキがきかなくなり転倒や衝突した、しそうになった」が 28 人と続く。

年代別では、40 代が 34 人と最も多く、50 代：26 人、60 代以上：18 人、20 代：16 人、10 代：8 人と続き、使用経験者の年齢構成順とほとんど等しい。

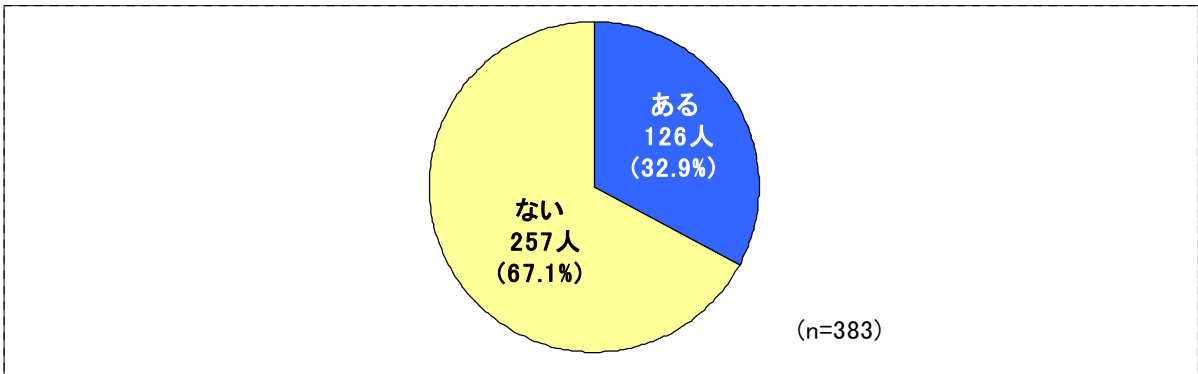


図 3-10-1 降雨時における「原動機付自転車」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

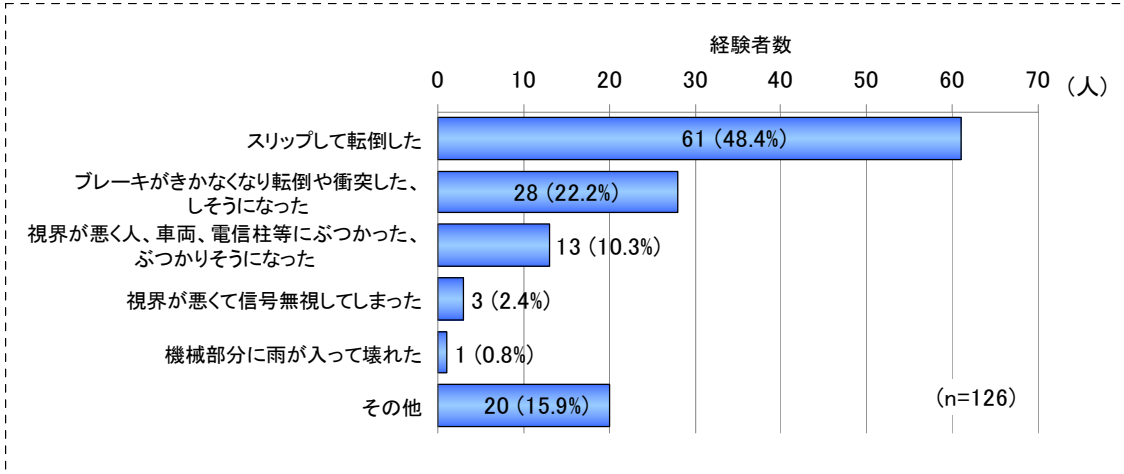


図 3-10-2 降雨時における「原動機付自転車」でのヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害の程度

降雨時の「原動機付自転車（50cc 以下バイク）」でのヒヤリ・ハットや危害の程度として、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が126人中63人と最も多いが、ケガをした人も40人で経験者の3割以上おり、他の製品に較べて受傷率が高い。

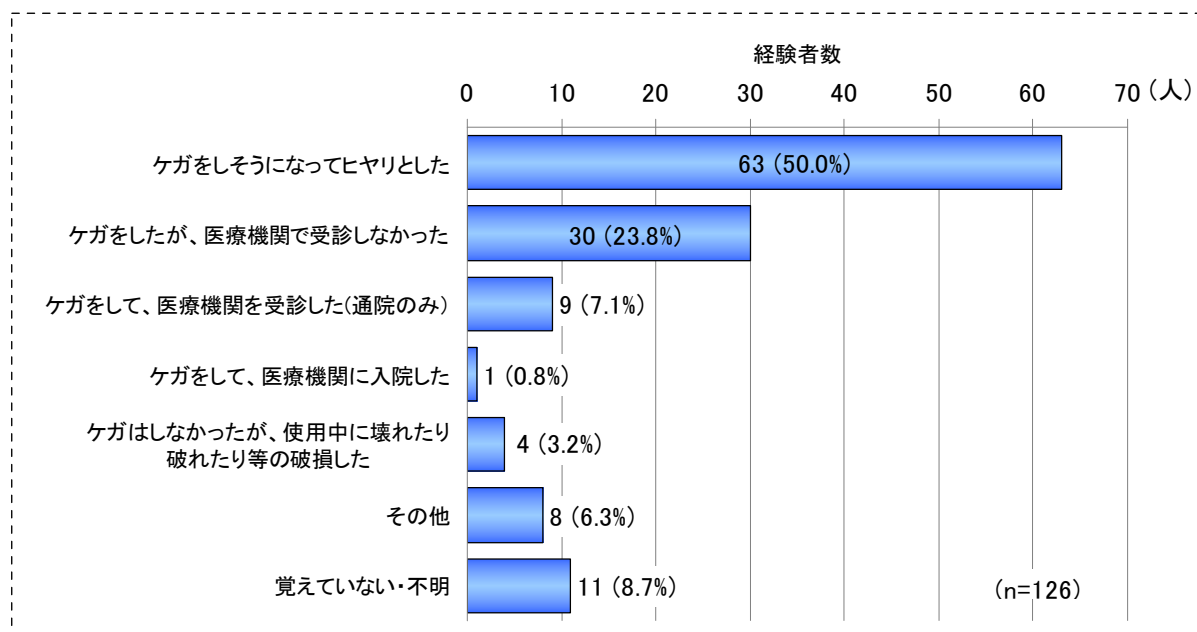


図 3-10-3 降雨時における「原動機付自転車」でのヒヤリ・ハットや危害の程度

ウ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

具体的な内容については、スリップして転んだ、ぶつかった等の経験がほとんどである。

特徴的なのは、履物や自転車同様、マンホールでの経験が27人にあった。また道路の白線等のペイントでスリップする等のヒヤリ・ハット経験が9人にあった。

表 3-10 降雨時の「原動機付自転車」におけるヒヤリ・ハット経験の具体的な内容

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	小雨時、原付に乗っていたら、右折するときにマンホールの上を通過してしまい、そのままスリップしてしまった。右足が車体と地面の間に挟まったが、アザ程度だったので特に病院には行かなかった。	27歳	女性
2	雨の日に急にブレーキがきかなくなった	28歳	男性
3	左折時、マンホールでスリップし、転倒し、肩・肘・腰・膝・負傷。	29歳	男性
4	雨がひどくて視界が悪いうえに目が明けずらく信号が赤だったのに気付かず交差点に入ってしまった。	33歳	男性
5	降雨時、原付バイクで走行中、減速した際に白線を踏んでスリップし転倒し、肩を強打して病院で受診した	44歳	男性
6	仕事からの帰り、雨の日に直線道路をやや道路の左よりを走行中、不意に路地から車が飛び出し、慌ててブレーキをかけたが、ハンドルが左右にブルブルと振れて危うくスリップして転倒しそうになった。	60歳	女性
7	原付バイクを通勤に使っていた時、ブレーキの状態が甘くなり気を付けていた。自転車が飛び出てきてあわててブレーキを握ったが、もう少しで接触しそうになってひやりとした。	63歳	女性

(11)ベビーカー

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

「ベビーカー」を使用したことのある 551 人中 50 人に、降雨時のヒヤリ・ハットや危害の経験があった。事例としては（複数ある場合は最も印象に残ったもの）「カバーが風であおられて倒れた、倒れそうになった」14 人、「操作がコントロールできなくなり倒れた、倒れそうになった」13 人と、ほぼ同数だった。

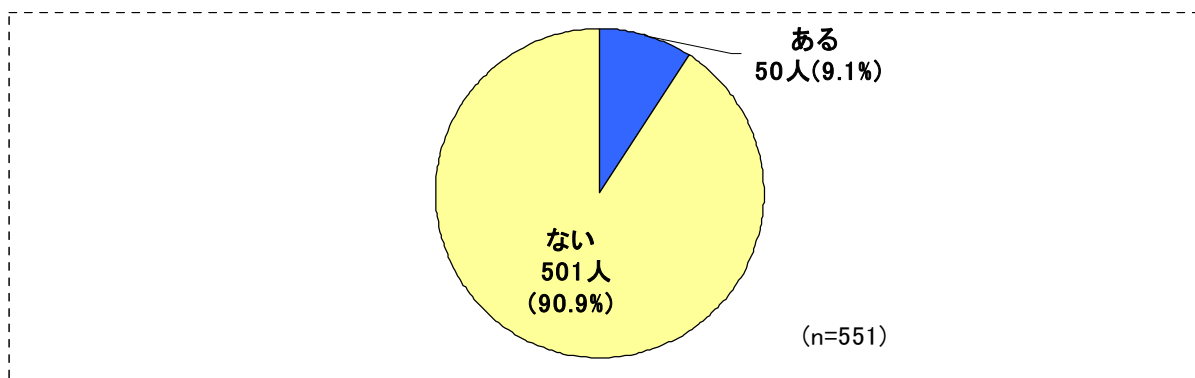


図 3-11-1 降雨時における「ベビーカー」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

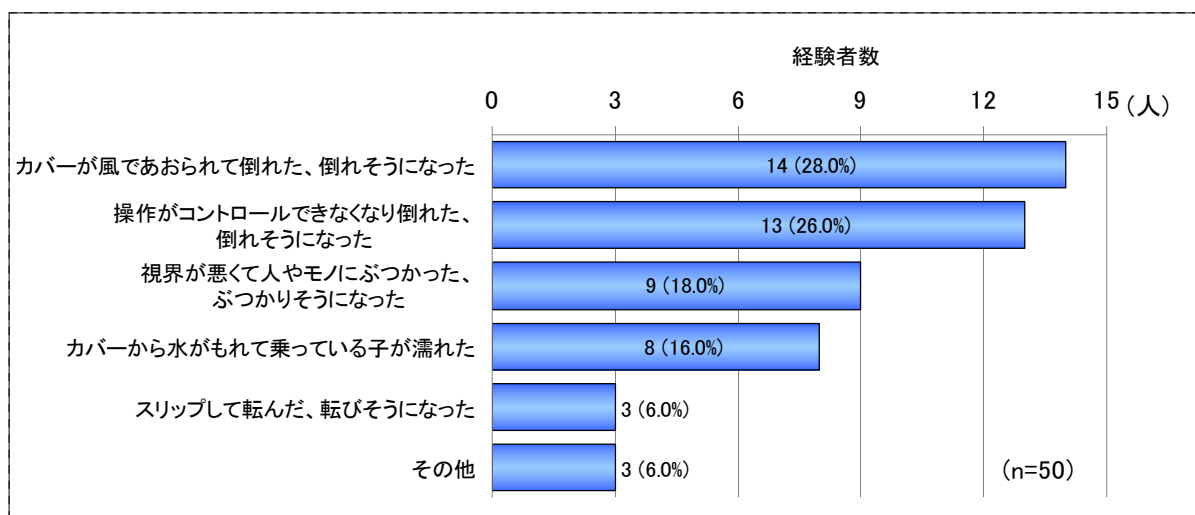


図 3-11-2 降雨時における「ベビーカー」でのヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害の程度

降雨時の「ベビーカー」でのヒヤリ・ハットや危害の程度としては、乗っていた子供や自分が「ケガをしそうになってヒヤリとした」が50人中37人と最も多く、ケガをした人が2人いた。他には「ケガはしなかったが、使用中に壊れたり破れたり等、破損した」が4人いた。

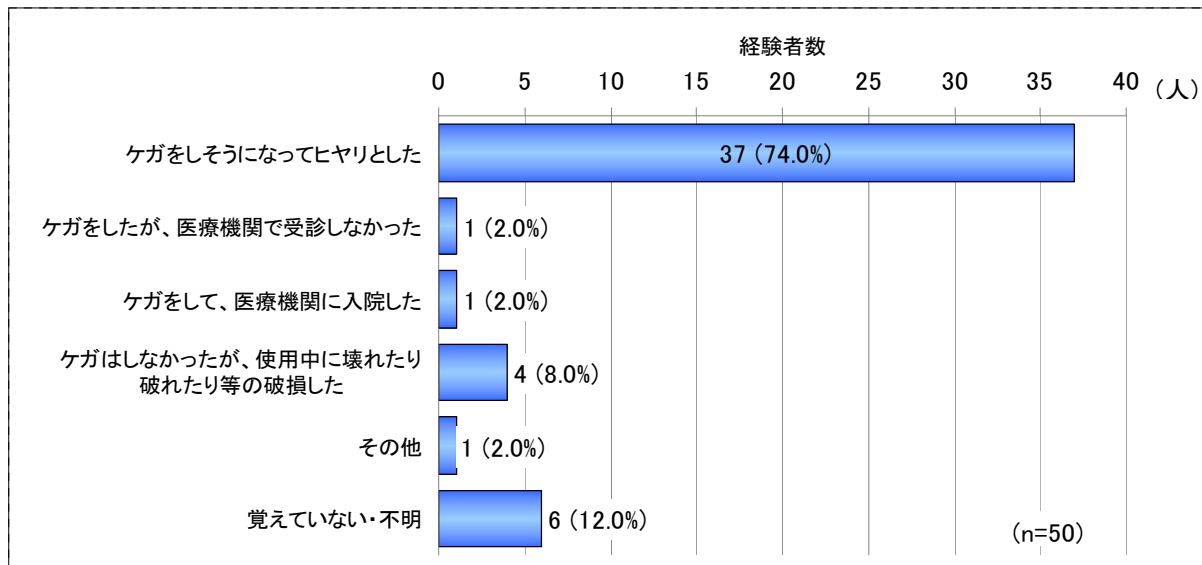


図 3-11-3 降雨時における「ベビーカー」でのヒヤリ・ハットや危害の程度

ウ ヒヤリ・ハットや危害の経験をした場所

降雨時の「ベビーカー」でのヒヤリ・ハットや危害の経験をした場所としては、傾斜のない歩道が50人中21人と最も多く、次いで傾斜のある歩道が15人、歩道以外の道が10人だった。

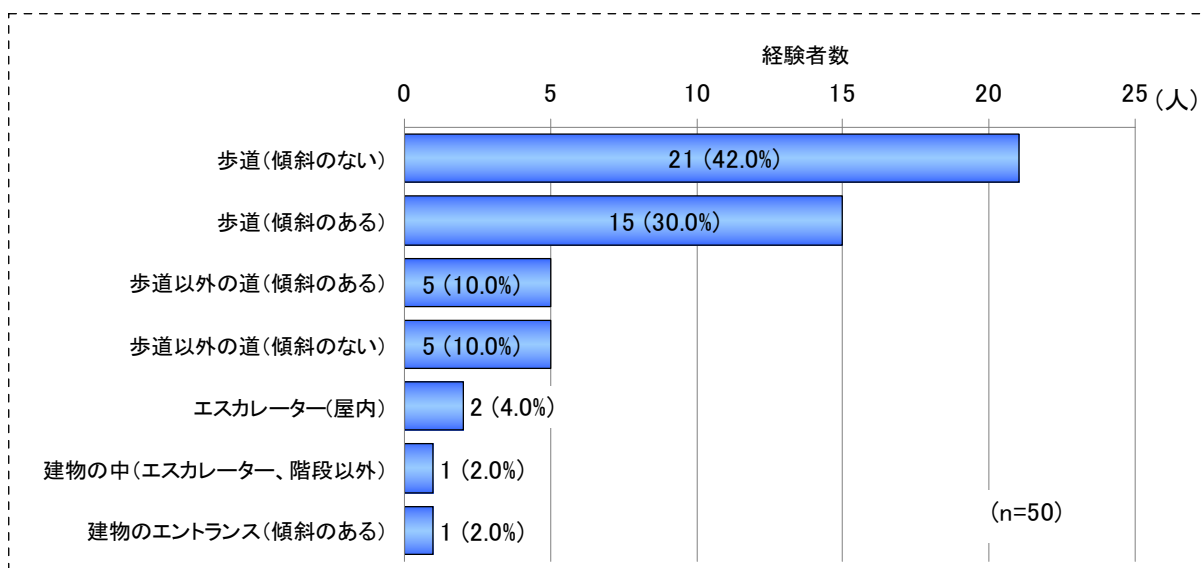


図 3-11-4 降雨時における「ベビーカー」でのヒヤリ・ハットや危害経験の場所

エ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

具体的な内容では、目立ったものとして雨に加えて「風」が吹いていた状況が50人中24人にあった。また、「傘を差している」の状況を示した人が11人おり、傘を差すことによりベビーカーをコントロールできない状況になったり注意が散漫になったこと等によるヒヤリ・ハット経験が見られた。

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	雨よけカバーをベビーカーに着けて道を歩いていたら、風に煽られてカバーが取れてしまい、そのまま風を受けてベビーカーが倒れそうになった。	30歳	女性
2	双子用縦型ベビーカーを使用していた4年ほど前。ただでさえバランスが難しいのに雨だと傾斜のある場所だとタイヤがうまく動かず苦労した。	33歳	女性
3	風雨の日、雨よけカバーをしたベビーカーを押しながら傘をさしていたので片手でベビーカーを押さなければならず、方向が定まらず色々なものにあたりそうになった。	34歳	女性
4	雨風が強い日に雨よけをつけていたが、風でカバーがめくられ真正面から雨があたり、赤ちゃんがびしょ濡れになった	40歳	女性
5	雨の日にベビーカーを押していたが、傘を持ちつつなので注意散漫になり、視界が悪く前から来る人に気づけなかった。	44歳	男性
6	子供が急な熱を出し雨の中病院に行かなければならなくなり、片手でベビーカーを押し片手は傘を持っている状態なのでコントロールできず電柱にぶつかりそうになった	44歳	女性
7	帰宅時、雨になり、雨よけカバーをベビーカーに着けて歩道を歩いていたら、強風になってきて飛ばされそうになり、怖くなり、カバーを少し開けました。雨が入って、結局びしょ濡れ状態でした。	50歳	女性
8	雨の中ベビーカーを押しながら坂を登っていたら、強風でカバーが煽られ、めくれそうになり、子供も泣いて大変だった。	59歳	女性

(12)車椅子

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

「車椅子」の使用経験者 73 人中 10 人に、降雨時のヒヤリ・ハットや危害の経験があった。

(図 3-12-1)

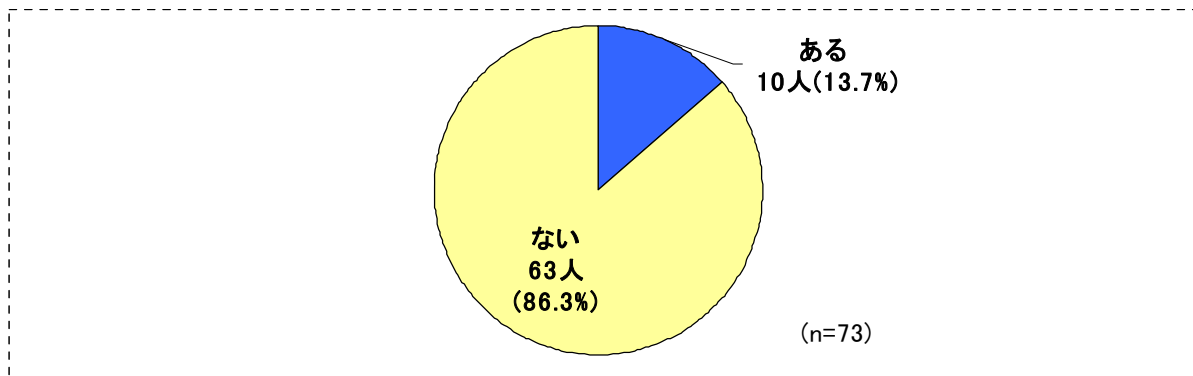


図 3-12-1 降雨時における「車椅子」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

ヒヤリ・ハット経験者 10 人の内容は表 3-12 の通りである。

表 3-12 降雨時の「車椅子」におけるヒヤリ・ハット経験の具体的な内容

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	滑った	18歳	女性
2	スリップして転びそうになった	19歳	男性
3	歩道を車椅子に乗って走っていたら対向の自転車と接触した	28歳	男性
4	病院内のスロープを下っているとき、乗っている人が重たかったのと、傾斜が結構あったため、思った以上に加速してしまい、止めるのに慌ててしまった。	32歳	女性
5	傘をさして車いすを操作するのは危険なので、雨の日は車いすの使用はせず外出を控えました。	53歳	女性
6	押して横道に曲がろうとしたとき、車がきてぶつかりそうになった	54歳	女性
7	モノレールに乗車しようとして車体とホームの間に挟まった。	61歳	女性
8	車いすを押していて、対抗から車がきたので、ワキへ避けようといったら、坂になっていて、車いすのハンドルがきかず、いきなり道路際にひっぱられた。	61歳	女性
9	最初から雨の時は原則外出しないが、途中で雨になった時は乗っている人も、押している自分も、フード付きのレインコートを着るので、いつもと勝手が違い小回りがしにくく、人や物にぶつかりそうになります。	64歳	女性
10	スリップして止まらなかった	65歳	女性



イ ヒヤリ・ハットや危害の程度

降雨時の「車椅子」での危害や危害の程度として、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が10中6人と最も多く、1人がケガをしている。

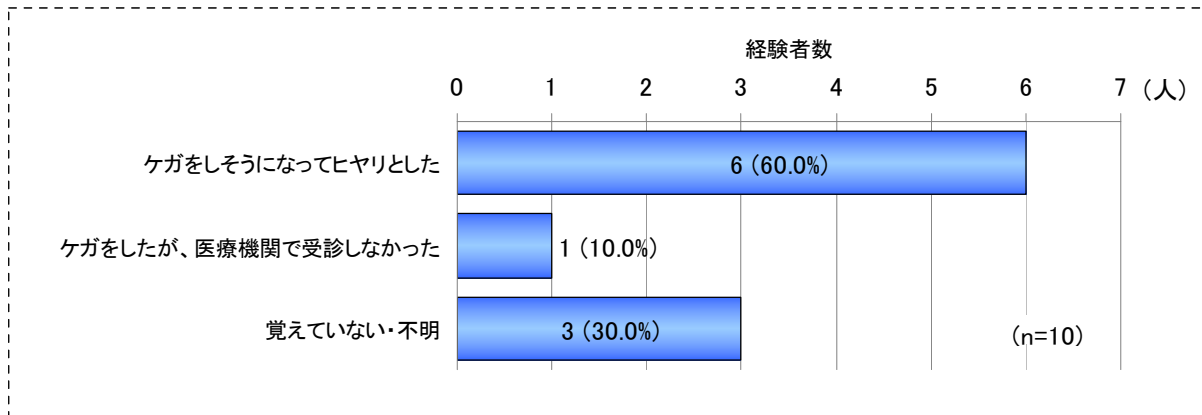


図 3-12-2 降雨時における「車椅子」でのヒヤリ・ハットや危害の程度

ウ ヒヤリ・ハットや危害経験の場所

降雨時の「車椅子」でのヒヤリ・ハットや危害の経験をした場所で最も多いのは、「傾斜のない歩道」が4人と最も多く、次いで「傾斜のある歩道」が2人、合わせて6人が歩道でヒヤリ・ハット経験をしている。他には「駅の構内」2人、「歩道以外の道」「建物のエントランス」それぞれ1人と続いている。

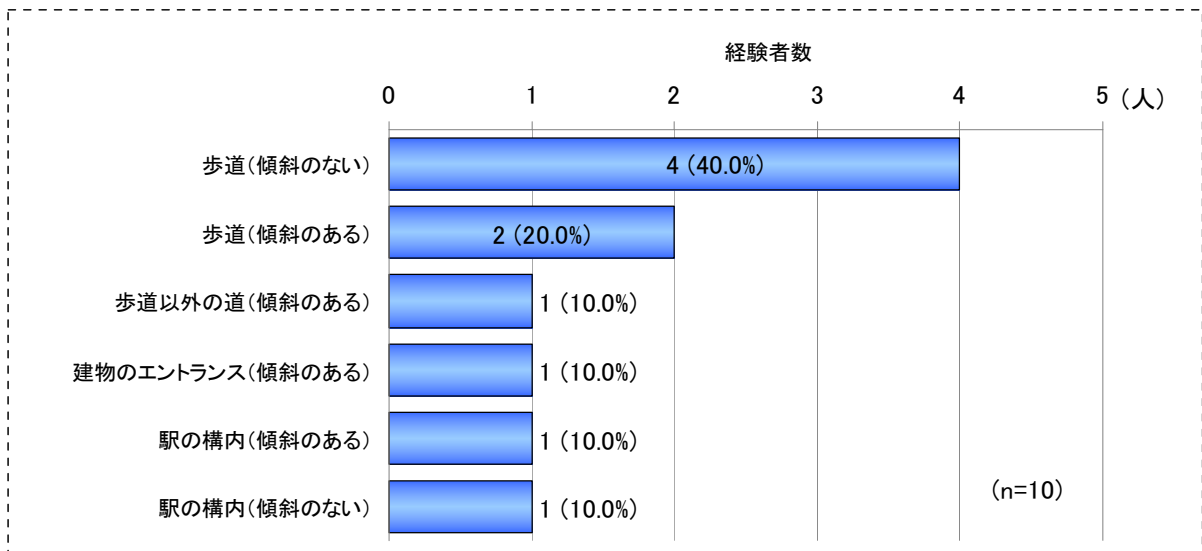


図 3-12-3 降雨時における「車椅子」でのヒヤリ・ハットや危害経験の場所

(13)杖

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

「杖」を使用している 151 人中 26 人に、降雨時のヒヤリ・ハットや危害の経験があった。そのほとんどが「杖が滑って転んだ(転びそうになった)」という回答である。

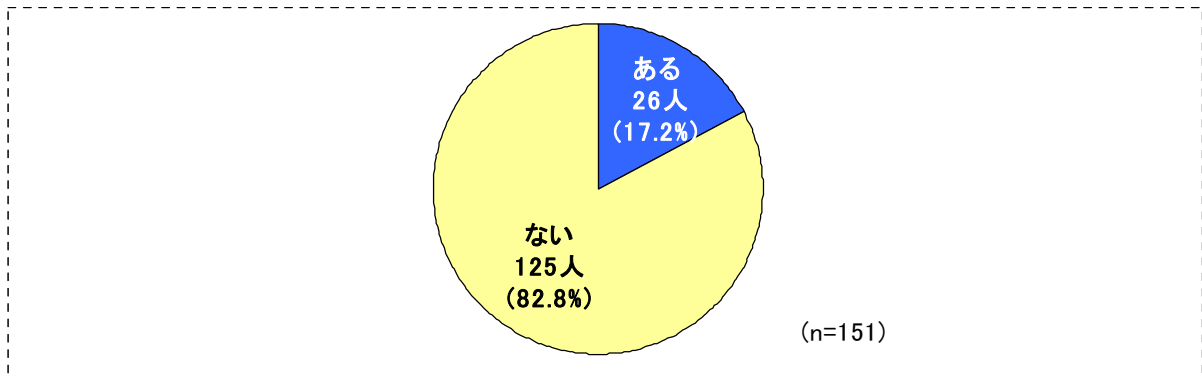


図 3-13-1 降雨時における「杖」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

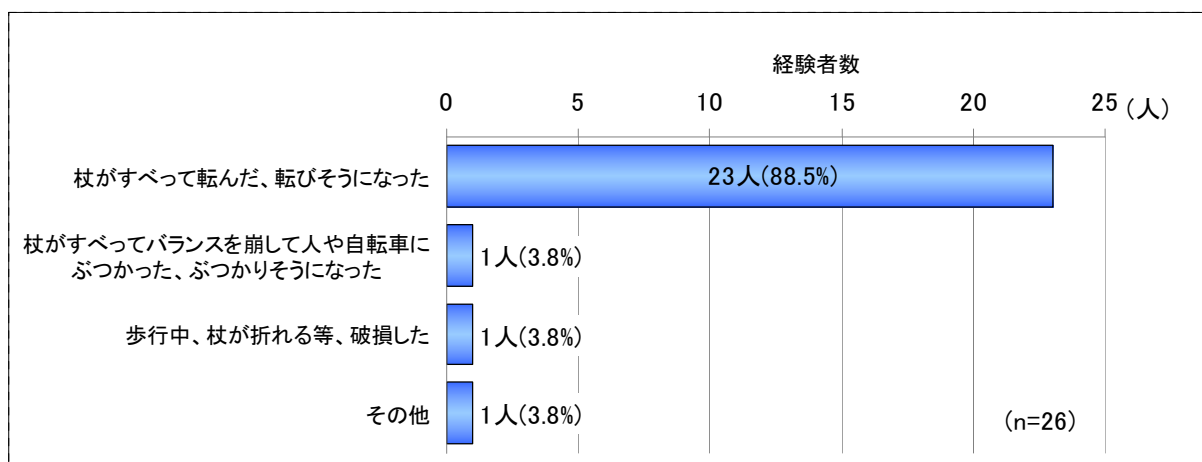


図 3-13-2 降雨時における「杖」でのヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害の程度

降雨時の「杖」を使用しての危ヒヤリ・ハットや危害の程度としては、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が26人中21人と最も多いが、ケガをした人が2人いた。

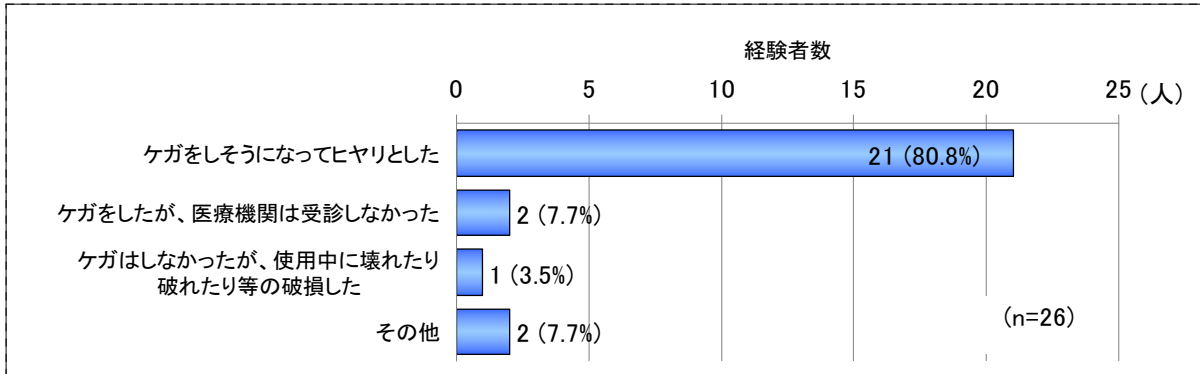


図 3-13-3 降雨時における「杖」でのヒヤリ・ハットや危害の程度

ウ ヒヤリ・ハットや危害経験の場所

降雨時の「杖」を使用中におけるヒヤリ・ハットや危害経験の場所は、歩道等の「道」での経験が13人と多いが、「建物のエントランス」や「駅の構内」等、例示した場所にまんべんなく経験者がいた。

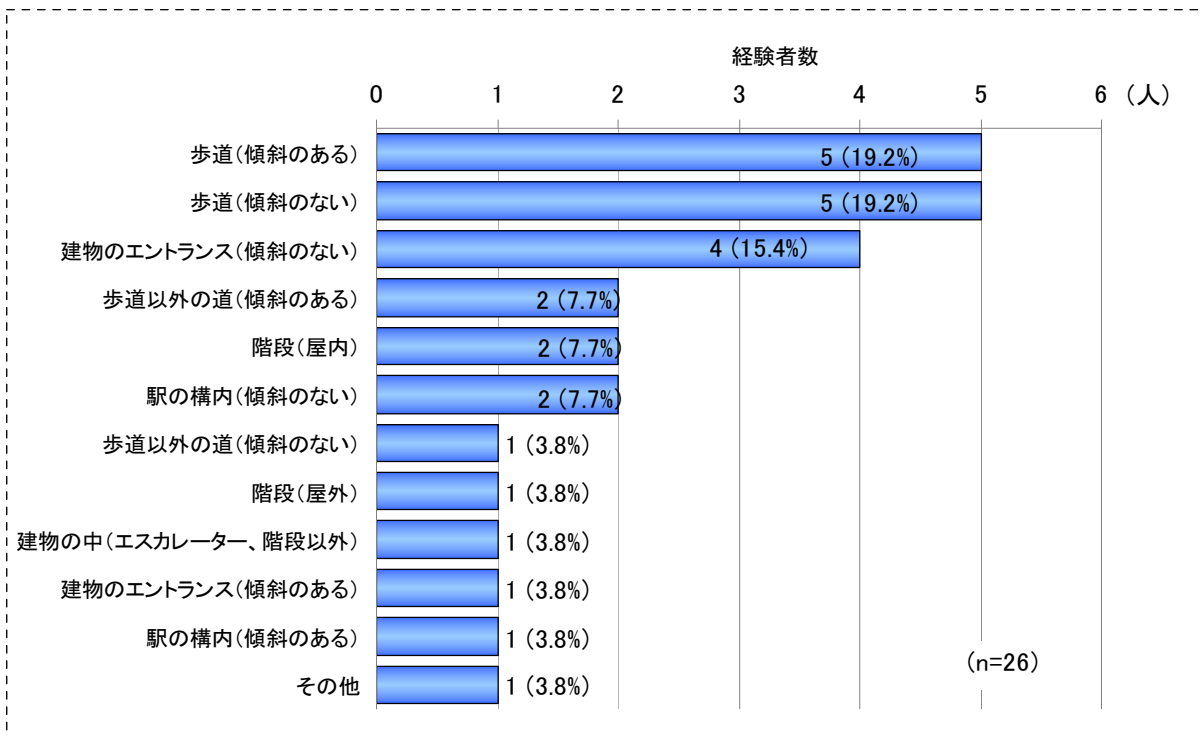


図 3-13-4 降雨時における「杖」でのヒヤリ・ハットや危害経験の場所

エ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

降雨時において杖を使用したときのヒヤリ・ハットや危害経験では、高齢者等の歩行補助の使用による経験を多く想定していたが、具体的内容から「松葉杖」による経験者が26人中10人いたことが読み取れた。

表 3-13 降雨時の「杖」におけるヒヤリ・ハット経験の具体的な内容

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	松葉杖が滑ってけがをしていた足が地面についた	15歳	男性
2	足を傷めて松葉杖を使っていたときに、土足で利用する階段が雨で濡れていてすべり、転んだ。	19歳	女性
3	マンホールの上を松葉づえで歩いた際、滑って杖がななめになり転びそうになった	29歳	女性
4	雨の降っている日に、杖を持ち駅の構内を歩いていたら杖の先が滑って転倒した。ケガはしなかった。	43歳	女性
5	けがで松葉杖を使っていて、雨の日、勤務先の建物の入り口に入ったとたん、床が濡れているところで杖がすべってころびそうになった。	52歳	女性
6	骨折で杖を使っていたが、杖の先のゴムと床材がビニールシート様のものが滑って危うく転びそうになった。	57歳	女性
7	歩道と私有地(店舗)とを分けるチェーン付きのポールを立てる穴に(営業中なのでポールは立っていないか所だけ蓋がされていなかった。雨の為水がたまり蓋がされているように見えた。)杖が入ってしまい転びそうになったが慌てて杖を引き抜き身体を支えたので転ばずに済んだ。	57歳	女性
8	散歩で杖を使って歩いていたときです。車道と歩道が分かれていない住宅街の道で、チリンチリンの自転車の音に振り向いたら、杖が後ろから来た自転車に当たり、傷つけられてしまいました。自転車は、さっさと行ってしまいましたが。	64歳	女性
9	杖について滑って転んだことがたびたびある	64歳	男性
10	小ぬか雨でビルの前の大理石の歩道で杖が滑り転びそうになった	75歳	男性

(14) その他

ここまで取り上げた製品と重複しない降雨時における「その他」のヒヤリ・ハット経験事例を表 3-14 に記した。日用製品に関するものでは、メガネ着用時等でのヒヤリ・ハット経験が見られた。

表 3-14 その他、降雨時のヒヤリ・ハット経験

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	今は絶対しないですが、昔傘を自転車に雨がふった時用に腕にかけていたのが、車輪に絡んで急ブレーキ状態で怖い想いをしました。傘は曲がって使い物にならなくなってしまい、二度とやらないって思いました。	35歳	女性
2	原付でなく大きいバイクで降雨時に転倒したことがある。結構な下り坂で雨が降っているとブレーキがなかなか利かず、怖くなって思い切りブレーキを握ってしまった事によりロックして転倒したと思う。	41歳	女性
3	豪雨時に歩道を歩いていたら、すぐ横を自動車が猛スピードで通り抜けた。水溜りの水が飛んできたのを避けようとしてブロック塀にぶつかったことがある	43歳	女性
4	駅の地下道に地上の雨が洪水のように流れて押し寄せてきたとき。	46歳	女性
5	現在はメガネをかけているので、メガネに水滴がつくと遠近感が無くなる、それがヒヤリです。裸眼の人とそれだけでちがうのです。	54歳	男性
6	ゴム製の雨用ブーツ(膝下まで)を履いて車を運転しようとしたら、アクセルやブレーキを踏みにくくて大変だった。へたをしたら、事故を起こしていた。	55歳	女性
7	メガネが雨で見えなくなった	62歳	女性
8	大雨で道路が冠水していて側溝が見えなくなっていたために側溝に落ちた	64歳	男性
9	登山での下山中、山道が、川のような濁流になり、ヒヤリとした。	67歳	男性



(15) 降雨時における「15歳未満の子供」のヒヤリ・ハット経験

降雨時の「15歳未満の子供」のヒヤリ・ハットや危害経験については、家族内に15歳未満の子供のいる回答者481人中40人に経験があった。「傘をぶつけられた・ぶつけた」「傘で指をケガした」等、傘に関するヒヤリ・ハット経験が半数以上の24人、「滑った・転んだ」が10人いた。

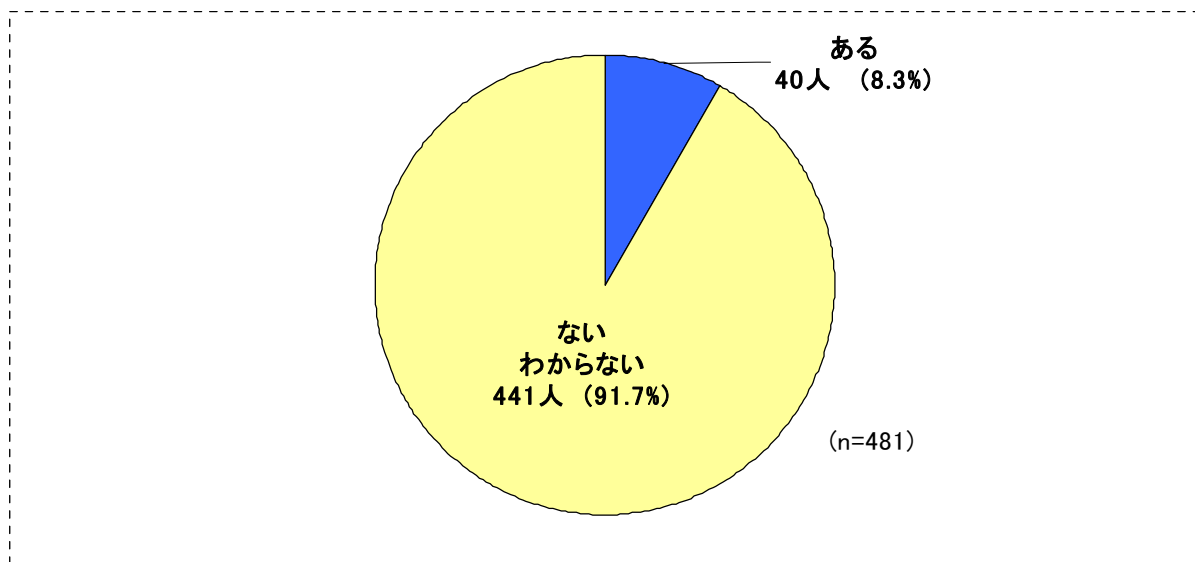


図 3-15 「15歳未満の子供」におけるヒヤリ・ハット経験の有無

表 3-15 「15歳未満の子供」における降雨時のヒヤリ・ハット経験

	No.	具体的な事例	年齢	性別
傘	1	子どもを抱っこしているとちょうど人がさしている傘の先が子どもの目の高さになるので怖い	0歳	男子
	2	傘を閉じるときに指を挟み少し出血した	3歳	男子
	3	傘が風にあおられて、そのまま連れて行かれるかのように、ふっとびそうになっていた。車道に飛び出しそうで危なかった。	4歳	男子
	4	息子が小学校低学年の時に傘を杖のように地面にコツコツしながら歩いていたらマンホールの穴の所にはまり抜けなくなってしまい車がきてしまった。	6歳	男子
	5	小学生の娘が、傘の根元が折れているのに気が付かず傘を開こうとしてゆびをけがした	7歳	女子
	6	弟が小学校低学年の時、折り畳み傘を強風に乘せて裏返しにする遊びが流行っていて、裏返しにするために思いっきり傘を振り回した子の傘がその子の手から飛び出して、弟をはじめ、周りにいた子にあたって軽い切り傷を作ったことがある。	8歳	男子
	7	傘をひっくりかえすのがはやって、ぶつかりそうになってびっくりした	8歳	女子
滑った・転んだ	8	長靴を履いていて、床が濡れたお店の中で滑って転んだ	2歳	女子
	9	保育園に通っている妹が長靴を履いていたら、つるつるしたところで滑った。	4歳	女子

(16) 降雨時に怖い、又は身の危険を感じる製品や場所

「降雨時に怖い、又は身の危険を感じる製品や場所」について、自由記述にて質問した。回答を大まかに分類した結果、「道路(マンホール・白線上等の滑りやすい材質のもの)」が 381 人と最も多く、次いで、「階段・坂道・段差・歩道橋・エスカレーター」等の昇降に関する場所が 311 人、「傘(持ち方・器具部分・使用方法等)」276 人と続く。

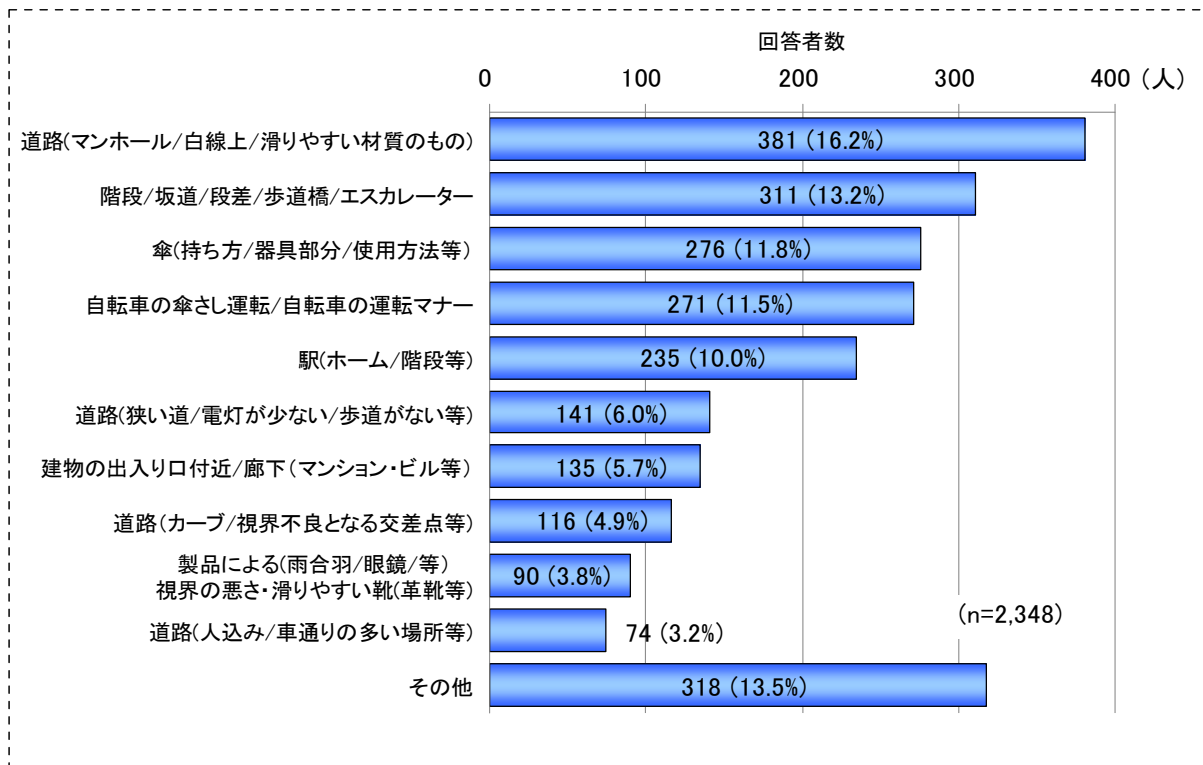


図 3-16 降雨時に怖い、又は身の危険を感じる製品や場所

4. 調査結果（意識・要望）

(1) 傘を差しながらの自転車運転禁止について

（道路交通法第71条第6号、東京都道路交通規則第8条）

東京都では、平成21年に道路交通規則が改正され、傘を差しながらの「ながら運転」などが禁止された。そのことについて「知っている」が2,507人、「知らなかった」が493人だった。

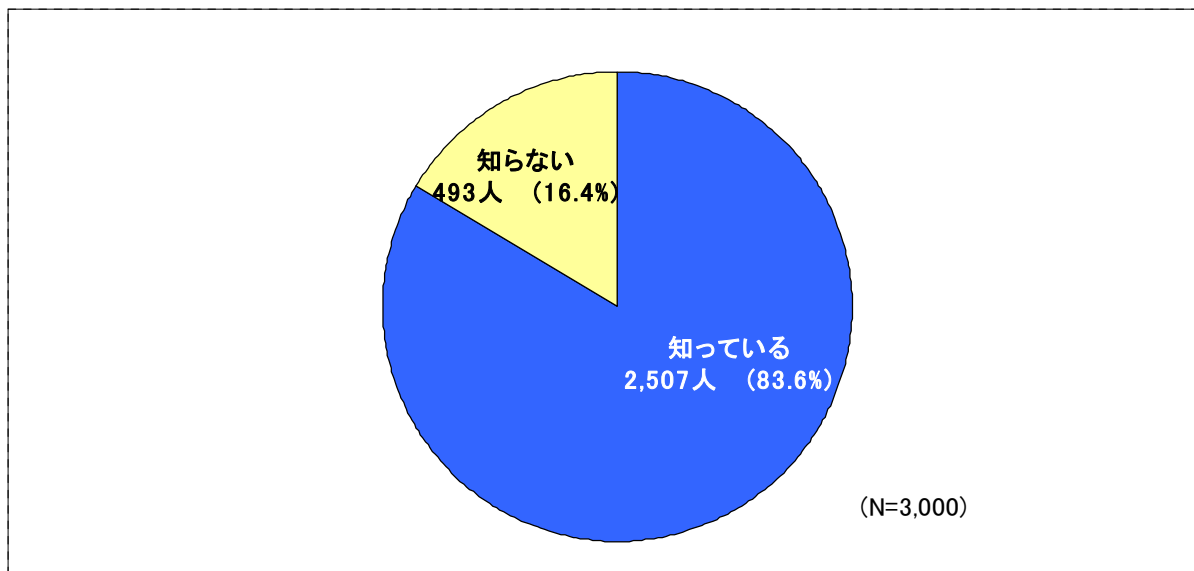


図 4-1 自転車の傘さし運転禁止を知っているか？

今回の調査では、先の「傘」「履物」「自転車」等の各項において、「傘さし運転の自転車」がヒヤリ・ハット経験に関わる事例がしばしば見られている。

(2) 降雨時の安全について国や自治体、企業等に望むこと

降雨時に関わる場面、製品でケガや危険に遭わないために、国や自治体、企業に望むことについて、自由記述で質問を行った。

回答を大まかに分類した結果、「屋外・歩道・道路の改善」634人、「自転車ルール徹底・取締り強化・法整備」458人、「傘の改善・扱いの指導・雨具開発」235人と続いた。

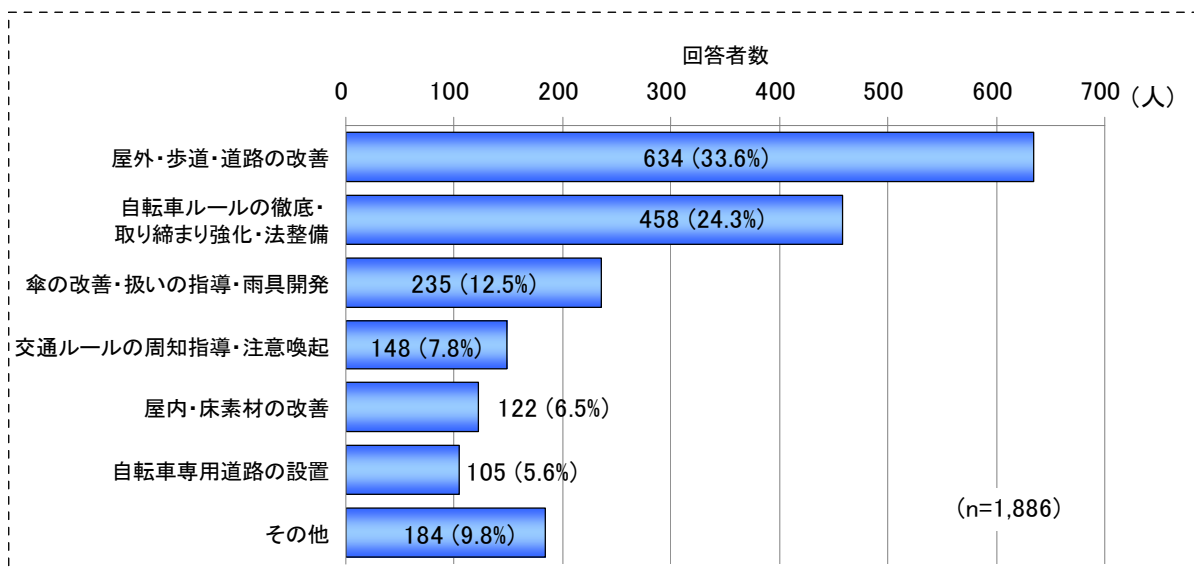


図 4-2 降雨時に関わる場面、製品で危険に遭わないために国・自治体・企業に望むこと

表 4-2-1 降雨時の安全について国や自治体、企業等に望むこと(1)

項目	No.	具体的な要望	年齢	性別
道・床	1	歩道・車道・自転車道路の整備。	66歳	女性
	2	自転車専用道を作ってほしい	18歳	男性
	3	車道・歩道・自転車道をしっかりとわけ整える。	47歳	女性
	4	歩道や通路の滑り止めなどの設置	60歳	女性
	5	マンホールに滑り止めをつけてほしい。	31歳	女性
	6	道路や駅構内等の地面や床を塗れても滑らない素材にしてほしい。	16歳	女性
	7	道路等の整備や公共の建物では滑りにくい床なども考慮して欲しいと思います。	66歳	女性
	8	滑る素材の床や道路はつくらないでください。	19歳	男性
	9	水溜りができたりすると更に危険だと思うので、水はけの良い環境にしてほしい。	18歳	女性
	10	滑りにくい材質のエントランスや道路をお願いします。	55歳	女性
	11	階段などをツルツルした床にしないで欲しい	18歳	女性
	12	公共スペース(たとえば駅など)に敷いてあるタイルを、水に濡れても滑りにくいタイルにしてほしい。	63歳	女性
	13	エントランスホールの床を大理石や御影石にする場合は、表面がぬれた場合を考えて施工してほしい。	53歳	女性
屋根	14	通りにアーケードを増やしかささをささなくても歩けるようにする	28歳	男性
	15	人通りの多い道にはアーケードをつける	19歳	女性
	16	都心の駅の近くはなるべく傘を差さなくてもJRから私鉄に乗り換えられるような雨よけフードがほしい。	62歳	男性
階段	17	階段をただのタイルではなく滑り止めに充実させる。	18歳	男性
	18	公共施設の階段等に手摺や滑り止めを付けてほしい。	65歳	女性
	19	駅の階段のまんなかの仕切りをなくした鉄道会社が多いように感じますが、手すりが変わりになるものがなくなってこわいです。すべりやすくなっているの、手すりなどを充実してほしいです。	60歳	女性
自転車マナー	20	免許の要らない自転車についてのマナーを周知させてもらえる様に何らかの公告をして欲しい	63歳	女性
	21	雨の日の自転車のマナーを徹底して欲しい。	63歳	女性
	22	自転車の傘差し運転を取り締まる	28歳	男性
	23	傘をさしての自転車走行の徹底した指導と取り締まり。	52歳	女性
降雨時に自転車運転する人のために	24	雨に濡れないような自転車に乗れるものが欲しい。自転車の傘差し運転がダメになってカッパを着るけどカッパは顔にそのまま雨が降り注いでくるので眼があげられなく前が見れないため余計に危ない。傘の方が安全なんじゃないのかもと思う。雨の日に自転車に乗るなどというのはバスも駅からも遠いような学校に通うために使用しているのでどうしても不可能になる。その一方で傘は幅を取るし歩行者にとっても迷惑だっという事も分るので顔に雨が当たらないような工夫のある自転車が欲しい。	21歳	女性
	25	自転車でレインコートだけで雨を防げというのは結構無理な話で、昔の自動三輪みたいな安定していて、屋根のある軽車両を復活させて欲しい。私は乗らないけれど、雨が強い時、自転車の人は絶対にビショビショになるだろうし、それで、仕事や勉強をしるというのは結構厳しいし、濡れたく無いからスピードを出したりもするだろうし、危ないと思う。	36歳	女性
	26	傘をさして自転車に乗ってはいけない、というのは簡単。今までよかったものをダメだというなら、具体案、妥協案を示してほしい。	27歳	男性
	27	雨が降って風が吹いても、レインコートのフードが飛ばない、前が見える物が開発されるとよい。	67歳	女性
	28	合羽のフードをかぶると後ろを振り返れないので、何か工夫出来ればよい。風で飛ばないレインハット。	50歳	女性
	29	傘もフードも降雨時に使用するものは 一部を透明にするなどの工夫	60歳	女性
	30	被っても音が聞きやすいフード付きレインコート。雨天時にの走行速度の制限。	60歳	女性
	31	ファッションブルなレインコートを販売する。また、若者がそのレインコートを利用したいと思うような宣伝をする。	23歳	男性
	32	全てのスーパー、医療機関にレインコートの置き場所を設置することを義務付けて。傘をさして自転車に乗るなどというなら、上記の事も一緒に考えるべきだ。	62歳	女性
	33	合羽用の置き場所を作ってほしい	17歳	男性
	34	若い人達や急いでいる人はレインコートを着たがらない。理由としては、格好が悪いという事の他に、駅等での着替えの場所とそれによる時間のロスを気にかけられていると話を聞いた。雨の時に着脱できるような場所とビニール袋のようなものを用意してあげると良いかと思う。	60歳	女性
	35	雨用のかっこいいゴーグルが欲しい。自転車用のカッパや、取り付け簡単な屋根を作って欲しい。	32歳	女性

表 4-2-2 降雨時の安全について国や自治体、企業等に望むこと(2)

項目	No.	具体的な事例	年齢	性別
安全な傘	36	傘の先を尖らせ過ぎないでほしい	19歳	女性
	37	傘の先端を丸くするなどの工夫がほしい。	64歳	女性
	38	傘の先端をまるくする。そういう製品も出回っていますので、全製品に広めてください。	43歳	女性
	39	傘の先端は必ずゴム製にして当たっても傷つかないようにしてほしい	46歳	男性
	40	凶器にならない傘を作してほしい	28歳	男性
	41	ビニール傘だけでなく視界のいい雨傘も作って欲しい。	63歳	女性
	42	さしたくなるような透明な傘をデザインして欲しい。	16歳	女性
	43	100均にあるような透明傘ではなくて、もっとファッション性の高いかわいデザインの透明傘を作って欲しい。	45歳	女性
	44	大人用でも、可愛い視界のよい傘がほしい。	40歳	女性
	45	ビニール傘の強度の基準を設けて欲しい。最近のビニール傘は数回使うと壊れてしまう。折れた傘の骨が危険。	51歳	男性
	46	すぐおちよこになるビニール傘の製品による怪我がないように製品の強度を増してほしい	67歳	女性
47	台風など狂風のときに傘をさすのは無意味で危険なだけ。傘を差さないように指導してほしい。	61歳	女性	
傘の投棄	48	台風の日には傘を捨てない(使わない)こと。	18歳	女性
	49	風に飛ばされて壊れたのか、折れ曲がった傘が道路脇に放置されていて、更に飛ばされそうになっているのをよく見かける。100円の弱い傘にも問題があると思う。安全基準をもうけ、それをクリアした傘を広めたり、即回収するシステムがあると良いのでは。	64歳	女性
	50	傘のボイ捨てを取り締まる。	27歳	男性
	51	使い捨て傘はすぐに壊れて、壊れた傘を捨てているのをよく見かけるので、使い捨て傘を販売禁止して欲しい。	61歳	女性
	52	安いビニール傘は壊れやすく、道端のあちこちに捨ててありますが、とても危険ですのでなんらかの罰則を科すべきだと思います。	64歳	男性
	53	ビニール傘が不法投棄されていることが多々みられます。何らかの規制を。	63歳	男性
安全教育・啓発	54	暴風雨の時、簡単に壊れるビニール傘。200~300円と安い為壊れた時点でボイ捨てする人がいるが壊れた傘の骨が非常に危険。壊れた傘を持ち歩くのもうとうしい。駅やコンビニ、デパートの傘売り場、傘を売っている雑貨店などに壊れた傘の回収箱があれば危険度が減ると思う。	57歳	女性
	55	傘の持ち方の徹底、自転車の取り締まり	63歳	女性
	56	教育指導の徹底、罰則の強化	28歳	男性
	57	メディアなどを通じて、実際にあった危険な事例などを知らせてほしいと思う。	61歳	女性
	58	PR活動	19歳	女性
	59	危険の周知徹底	49歳	男性
	60	効果はあまり期待出来ないが、教育・啓蒙に力を入れてほしい。	48歳	女性
	61	学校教育	53歳	女性
	62	小学校、中学校で、マナー教育を徹底させてほしい。	50歳	女性
	63	マナーは親が教えるべきだと思うが、親自体に問題がある人が多くなってきたと思う。なので、学校教育でもの善悪を教えてほしい。	38歳	女性
64	マナー、エチケット、安全教育の向上等への働きかけ。	50歳	女性	
風潮	65	自転車の交通法規習得の義務化と交通違反の取締りの強化	61歳	女性
	66	長靴等の雨靴でも失礼には当たらないような風潮づくり	41歳	男性
その他	67	大雨、台風の時は時差通勤をしてもいいような雰囲気作り。今まで、どんな大雨でも台風でも、雪でも、地震でも、始業時間を遅れてくる人はほとんどいなかった。そういう社風なので。	37歳	女性
	68	様々あるのかも知れませんが、一人ひとりが注意をまずすることから始めない限り、国や自治体は何をしようと事故は起こるように思います。	42歳	男性
	69	特にない。自分で気をつけるもの	41歳	女性

5. まとめ

降雨時におけるヒヤリ・ハット経験は、傘と自転車、履物と歩道・床等、複合的な要因によって起きており、製品の構造や欠陥、また、場所等の問題が特定できない事例が多い。雨と強風等の気候上の悪条件が重なるという状況も多数見られた。今回の調査では、ケガ等のないヒヤリ・ハット経験で済んでいる事例がほとんどだが、96人が医療機関を受診するほどのケガを負っていた。

アンケートにおける自由記述の中には、降雨時のヒヤリ・ハット経験について、「個人の問題」「しかたない」という記述も見られた。1年のうち約100日が1mm以上の雨の日である東京の降雨時におけるヒヤリ・ハット経験は、「身の危険の経験」であると同時に、何度も繰り返される「日常的な不快な経験」である部分も大きい。マナーに関する教育や呼びかけも含めた改善や工夫が行われ、少しでも快適に雨の日を過ごせることがヒヤリ・ハットの防止にも繋がることと思われる。

自転車の傘差し運転が禁止されていることを認識している人は、アンケートでは8割を超えていた。しかし、ヒヤリ・ハット経験では傘差し運転が要因となるものが多く見られた。傘に替わる快適性、安全性、携行性が工夫された自転車運転時に使用できる雨具の製品開発、また「大型店舗や公共的な場所でレインコート・カッパ置き場が欲しい」という要望に見られるような、自転車の傘差し運転をしなくてもいい環境の工夫が消費者から望まれていることが見て取れた。

また、一時しのぎに用いられるような比較的安価な傘の破損や投棄によるヒヤリ・ハット経験も見られた。これらは突然の降雨時には便利な製品だが、壊れやすく、また、ポイ捨てされると危険なゴミになってしまうという現実がうかがえた。

6. 結果の活用

- (1) ヒヤリ・ハットや危害の事例及び注意のポイントをまとめ、ヒヤリ・ハットレポート No.7「降雨時の身の回りの危険～雨の日の事故防止ガイド～」を作成、配布し、都民へ情報提供を行い、事故の未然防止を図る。
- (2) 収集したヒヤリ・ハットや危害の事例を商品の安全性に関する調査を実施する際に活用する。
- (3) 国、自治体及び事業者団体等へ調査結果を情報提供する。